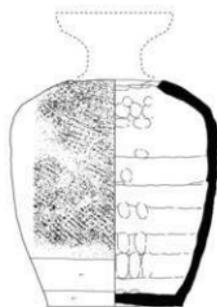


大分市埋蔵文化財調査概要報告 2020

令和元年度調査版



上野遺跡群第24次調査 ST005出土 蔵骨器

大分市教育委員会

序 文

本書は、令和元年度に本市教育委員会が実施しました埋蔵文化財の発掘調査の概要を報告したものです。

令和元年度に実施した7件の本発掘調査、5件の範囲確認調査、42件の試掘・確認調査のうち10件分、これらに加え、平成30年度に実施した調査のうちで、前年度に未報告であったもの2件も本書で報告しています。

これらの多くは、市内各所における各種開発への対応として実施した比較的小規模な調査ですが、推定御蔵場跡に近接する地点や旧万寿寺跡の一角を含む中世大友府内町跡の各地点をはじめ、古国府遺跡群、上野遺跡群、津守遺跡、北の崎遺跡などを含み、それぞれ貴重な成果が得られています。とりわけ中世大友府内町跡138次調査では、限定的な確認調査であるにもかかわらず、華南三彩や中国産播鉢を含む多彩な輸入陶磁器類が出土しており、国際貿易都市として繁栄した16世紀後半の府内における典型的な様相を垣間見ることができました。

今後とも、埋蔵文化財の適切な保護・保存に努めるとともに、その調査成果を速やかに報告・公開することを通じて、積極的な情報発信を進めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本書の活用を願いますとともに、日頃より本市文化財保護行政にご理解とご協力を賜っております皆さまに心から感謝申し上げます。

令和3年3月31日

大分市教育委員会
教育長 三浦 享二

例言・凡例

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成31年（2019）4月1日～令和2年（2020）3月31日の間に行った埋蔵文化財に関する発掘調査についてまとめた概要報告書である。なお、平成30年度に調査を実施した中世大友府内町跡第138次調査及び第142・145次調査の報告についても掲載し、併せて前年度の概要報告書において未報告であった出土遺物についても、主要なものを第4章に掲載・報告している。
2. 令和元年度における調査地点は第1表～第3表に、報告する調査地点の位置は第2図に示している。
3. 本書の執筆は、担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、大分市教育委員会文化財課嘱託職員及び会計年度任用職員が行った。また、遺物の実測及びトレースは令和2年度に、各調査担当者の他、山本尚人（事務員：令和2年度）、奥津杏都美（会計年度任用職員：令和2年度）、伊藤真由（会計年度任用職員：令和2年度）が行った。
5. 本書に用いた方位はすべて座標北（G.N.）である。掲載図中の座標は、特に断りがない限り世界測地系の平面直角座標2系のX・Y座標を基点として表記している。ただし中世大友府内町跡は日本測地系の座標値に基づく。
6. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。
7. 本書の編集・構成は、各調査担当者と奥津杏都美が行った。
8. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市埋蔵文化財保存活用センター（大分市大字田原337番地の5）に保管している。
9. 大友氏館跡・中世大友府内町跡で用いた出土遺物の分類及び年代観は大分市埋蔵文化財調査報告書第145集『大友府内25』「第三章調査の成果 第1節調査の方法（3）府内における遺物分類」に掲載の分類を参考にしている。なお、中世の指標的は土師器環・皿等の分類については、改めて次ページに例示している。

大分市教育委員会教育部文化財課概要

1. 組織図



2. 組織名簿 (令和元年度)

教育部次長兼課長 坪根 伸也
 政策監 賀来 俊文
 参事 栗田 博之
 参事兼歴史資料館長 武高 雅宣

管理庶務担当班

参事 補 (班長) 首藤 敏行
 主 査 中元 千穂
 主 任 大島 輝
 主 事 鷲田 佳美 (令和元年5月～)

史跡整備担当班

参事 (班長) 高富 豊
 主 査 佐藤 道文 五十川雄也
 主 任 安東 淳一 串間 聖剛
 嘱託職員 高妻 朋久

文化財活用推進担当班

参事 補 (班長) 佐藤 昭史
 主 査 小川 将史 長 直信
 主 事 野地 詩織
 嘱託職員 後藤 典幸
 安藤佳南子 後藤 愛 (～令和元年7月)
 飯田まりか 大塚 克子
 松本くみ子 豊田 純子 (令和元年11月～)

文化財保護調整担当班

参事 (班長) 池邊千太郎
 専門員 中西 武尚
 専門員 (再任用) 平山 馨
 主 査 松浦 憲治
 主 査 (再任用) 長野 清尊 河村 俊昭
 主 任 小野 綾夏
 主 事 久保賢太郎
 嘱託職員 福岡 加寿 奥津杏都美

管理普及担当班

参事 補 (班長) 志賀 良史
 参事 補 河野 史郎
 主 査 大野 三雄 永松 正大
 主 査 (再任用) 久多耀岐明
 主 任 河野 美穂
 嘱託職員 石丸喜久子 (～平成31年4月)
 馬場 宏之 (令和元年5月～)
 広津留三紗
 手嶋 俊豪
 臨時職員 嘉藤 成紗

学芸調査担当班

参事 (班長) 植木 和美
 参事 堀地 潤一
 主 査 吉野 晃次
 専門員 (再任用) 塔昂 亮司
 主 事 井福 裕樹
 嘱託職員 米倉加奈絵 荒木 伴世
 樋口 和紀 吉竹 千穂
 臨時職員 大賀賢世子

3. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員 (令和元年5月1日現在)

(氏名)	(勤務先)	(担当)
伊東 龍一	熊本大学 教授	建 築
佐藤 香代	大分県立図書館 副館長	近 世
下村 智	別府大学 教授	考 古
西別府元日	広島大学 名誉教授	古 代
鹿毛 敏夫	名古屋学院大学 教授	中 世
渡辺 文雄	元 別府大学 教授	工 芸
	元 大分県立歴史博物館 館長	
宗像 健一	朝倉文夫記念館 館長	美 術
段上 達雄	別府大学 教授	民 俗
船津 勇一	大分県立日田高等学校 指導教諭	植 物
渡邊ひろ美	大分県立大分舞鶴高等学校 指導教諭	動 物

第1章 令和元年度発掘調査概要

本市に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地の数は現在422件であり、令和元年度には文化財保護法第93条の届出（民間事業に伴うもの）が451件、94条の通知（公共事業に伴うもの）が29件、合計480件の届出・通知があった。

地域別では、大分地区（地域A）が185件で最も多く、次いで鶴崎地区（地域E）が145件とこれに次ぎ、以下坂ノ市地区（地域G）83件、稲田地区（地域B）35件、大在地区（地域F）19件、大南地区（地域C）9件、佐賀関地区（地域I）2件、野津原地区（地域H）2件となっている。（第1図参照）

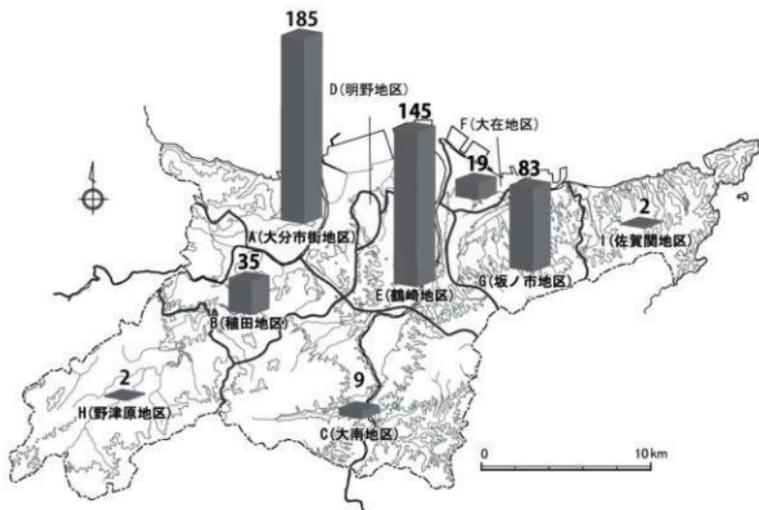
件数の大部分が93条の届出であり、中でも個人住宅建設に伴うものが337件で全体の約75%を占めている。次に多いのは集合住宅建設の36件、次いで宅地造成が27件である。

これら届出等に対する大分県教育委員会からの通知で、発掘調査（試掘・確認調査を含む）が指示されたものは21件であった。

令和元年度に大分市教育委員会が実施した発掘調査（本調査）は7件、合計調査面積は675.4㎡である。また、国庫補助による市内遺跡の範囲確認調査等が5件、合計調査面積は1,624.3㎡であった。5件のうち2件が大友氏遺跡保存整備事業によるもの、2件が保存目的で遺跡の範囲内容を確認する調査、1件が民間開発に対応した確認調査である。

各種の開発に伴う試掘・確認調査は42件である。このうち大分市の公共事業によるものが8件で、そのうち3件が学校建設、2件が農業基盤整備事業に伴うものであった。民間の事業によるものは38件で、このうち個人住宅建設に伴うものが10件、集合住宅建設に伴うものが16件、宅地造成に伴うものが4件であり、住宅関係に伴うものが大部分を占めている。地域別件数では、大分地区（地域A）が25件で約60%を占め、次いで鶴崎地区（地域E）が12件約29%で、両地域で9割近くを占めている。（第2表参照）

開発等の事業に伴う立会調査件数は76件であった。大分市の公共事業によるものが6件で、そのうち3件が府内城跡での公園整備事業に伴うものであった。民間の事業によるものは70件で、その大半（60件）が個人住宅の浄化槽設置に伴う立会調査である。地域別件数では、大分地区（地域A）が33件43%、鶴崎地区（地域E）が22件29%、坂ノ市地区（地域G）でも19件25%である。（第3表参照）（高畠・奥津）



第1図 大分市地域区分図および93条・94条届出（通知）件数

【発掘調査】

No.	報告番号	遺跡名	調査期間	所在地	地域	調査原因	調査面積	担当者	調査内容	報告予定
1	4	上野遺跡群 第24次調査	2019.7.16～ 19.8.14	大字上野字飯森塚	A	受託事業 (宅地造成)	72.2㎡	小野	8世紀中頃に比定される荒唐須磨器の埋置した火葬墓、時期は不明だが刀子や鉄釘が出土する隅丸方形の土壌墓を確認。	本書 所収
2	2	中世大友府内町跡 第145-2次調査	2019.12.3～ 19.12.12	六坊北町	A	受託事業 (集合住宅建設)	24.0㎡	松浦	15世紀末から16世紀初頃の南北溝と、溝より新しい、建物を構成すると考えられる柱穴群を検出した。	本書 所収
3		横尾遺跡 第157次調査	2019.10.10～ 20.1.31 2020.2.25～ 20.3.2	横尾東町	E	公共事業 (学校建設)	387.0㎡	小野	独立柱建物跡4棟、道路状遺構を確認。独立柱建物跡は、9世紀中頃から後半の短期間に3回の建替えがある。道路状遺構は11世紀後半に築造され12世紀後半に埋没したことが考えられる。	
4		猪野遺跡 第11次調査	2019.10.28～ 19.11.7	大字猪野	E	受託事業 (集合住宅建設)	40.0㎡	小野	遺物には、中世前半の青磁片が含まれていたため、周辺には中世の遺跡が広がっている可能性が考えられる。	
5		細遺跡 第2次調査	2020.1.14～ 20.1.17	大字細	G	公共事業 (道路拡幅工事)	28.0㎡	小野	14世紀前半の瓦器破や在地系の土師器碎片、青磁片が出土する大型土坑を確認。周辺の成果や「漢羅敷」という字名から、周辺には中世前半期の屋敷地などが展開していた可能性が示唆される。	
6	9	北の崎遺跡 第3次調査	2020.2.18～ 20.2.21	大字葛木字直道	E	受託事業 (集合住宅建設)	50.0㎡	中西	弥生時代の貯蔵穴・古墳時代の竪穴建物跡と考えられる遺構群、古代の独立柱建物跡、中世の溝状遺構などが確認されていると考えられる。周辺には各時代の遺構が展開していると考えられる。	本書 所収
7	7	津守遺跡 第4次調査	2020.3.9～ 20.3.18	大字津守字大門	E	受託事業 (集合住宅建設)	38.0㎡	小野	東西方向の溝跡を確認。埋土には、15世紀中頃～後半の土師器片や小形の瓦形品が多く含まれ、その墳に人工的に埋めた土層数枚の境であることが考えられる。	本書 所収

【市内遺跡（範囲確認調査等）】

No.	報告番号	遺跡名	調査期間	所在地	地域	調査原因	調査面積	担当者	調査内容	報告予定
1		大友氏館跡 第40次調査	2019.5.29～ 19.11.29	朝徳町3丁目	A	大友氏遺跡事業	600.0㎡	五十川	16世紀の東外郭である築地基部及び幅約4mの開口部が確認された。下層で15世紀の土器大量廃棄土坑も確認された。	
2		城原・里遺跡 第22次調査	2019.5.13～ 19.7.26	城原大原	G	保存目的の範囲 内容確認調査	210.0㎡	小野	3棟の独立柱建物跡と3条の柱穴列を確認。明確な時期を示す遺物の出土はなかったが、これまでの調査で確認した建物跡と比較し、古代の遺構である可能性も考えられる。	
3		中世大友府内町跡 第144次調査	2019.10.29～ 19.10.30	朝徳町3丁目	A	受託事業 (集合住宅建設)	36.0㎡	松浦 奥津	中世の柱穴、土坑、掘り込み等を検出した。	
4	8	作原八幡宮遺跡群 第2次調査	2020.2.17～ 20.3.13	大字上八幡	A	保存目的の範囲 内容確認調査	78.3㎡	松浦	宝暦7（1757）年に建築された東宝殿・西宝殿の基壇下とその周囲に広がる築地層を確認した。	本書 所収
5		大友氏館跡 第41次調査	2019.12.9～ 20.3.24	朝徳町3丁目	A	大友氏遺跡事業	700.0㎡	五十川	16世紀の北外郭の溝2条併行して確認された。北外郭と中心建物域の間に建物跡等は確認できなかった。	

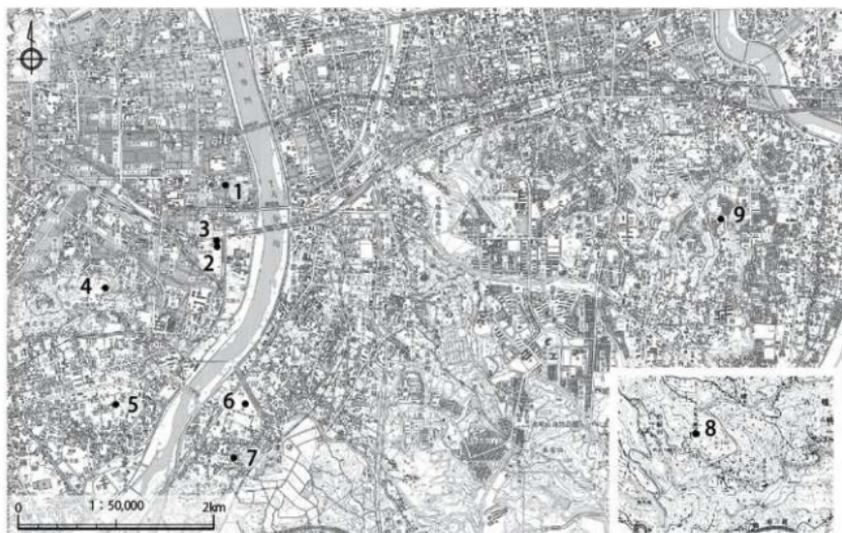
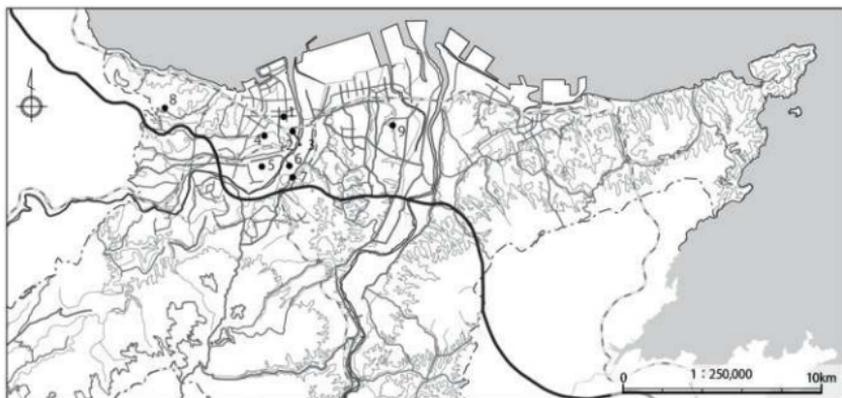
第1表 令和元年度 発掘調査一覧表

No.	報告番号	遺跡名	所在地	調査日	地域	種別	調査原因	調査面積	担当者	調査結果	措置
1		古国府遺跡群	南太平寺	2019.4	A	民間	認定こども園建設	8.7㎡	松浦、奥津	遺跡なし	工事着工
2	4	上野遺跡群	大字上野飯盛塚	2019.4	A	民間	宅地造成	42.3㎡	小野、奥津	遺跡あり	発掘調査（上野24次へ）
3		狹野遺跡	大字狹野	2019.16	E	民間	集合住宅建設	36.7㎡	小野、奥津	遺跡あり	発掘調査（狹野11次へ）
4		古国府遺跡群	大字古国府宇永畑、宇田フチ	2019.24	A	民間	店舗建設	17.4㎡	松浦、奥津	遺跡あり	工事着工
5		古国府遺跡群	大字古国府宇五町	2019.5.9	A	民間	集合住宅建設	2.6㎡	中西、奥津	遺跡なし	工事着工
6		狹野遺跡	大字狹野	2019.5.1	E	民間	集合住宅建設	18.0㎡	松浦、奥津	遺跡なし	工事着工
7	7	津守遺跡（津守5次）	大字津守字横小路	2019.5.16	A	民間	集合住宅建設	28.0㎡	中西、奥津	遺跡あり	工事着工
8		雄方・後遺跡	大字田原	2019.5.10	B	民間	自治公民館建設	4.0㎡	松浦、奥津	遺跡なし	工事着工
9		古国府遺跡群	大字羽屋見畑田	2019.5.30	A	民間	個人住宅建設	13.1㎡	松浦	遺跡なし	工事着工
10		下都遺跡群	下都南2丁目	2019.6.10	A	民間	集合住宅建設	11.0㎡	松浦、奥津	遺跡あり	工事着工
11		狹野遺跡	大字狹野字西原	2019.6.20	E	民間	宅地造成	10.4㎡	松浦、奥津	遺跡なし	工事着工
12		尾崎遺跡	大字小池原	2019.6.20	E	公共	学校建設児童育成クラブ建設	3.9㎡	中西、福岡	遺跡なし	工事着工
13		中世大友府内町跡	六坊北町	2019.6.28	A	民間	個人住宅建設	8.8㎡	中西、奥津	遺跡なし	工事着工
14		津守遺跡	大字津守下田	2019.7.4	A	民間	集合住宅建設	19.9㎡	小野、奥津	遺跡なし	工事着工
15		中世大友府内町跡	金池町5丁目	2019.7.5	A	民間	個人住宅建設	15.3㎡	松浦、奥津	遺跡あり	盛土保存
16		真笠遺跡	大字松岡	2019.6.24～7.4	E	公共	農地耕作条件改善事業	51.0㎡	松浦	遺跡なし	工事着工
17	5	古国府遺跡群（古国府24-1次）	大字古国府宇石橋	2019.7.16	A	民間	個人住宅建設	7.0㎡	松浦、奥津	遺跡あり	盛土保存
18		上野遺跡群・竜王畑遺跡	上野丘東	2019.7.18	A	民間	集合住宅建設	5.2㎡	中西、奥津	遺跡あり	工事着工
19	3	中世大友府内町跡（町143次）	六坊北町	2019.7.24	A	民間	個人住宅建設	18.6㎡	松浦	遺跡あり	盛土保存
20		横尾遺跡	横尾東町1丁目	2019.7.29	E	公共	学校建設	14.0㎡	中西、奥津	遺跡あり	発掘調査（横尾157次へ）
21	2	中世大友府内町跡（町145-1次）	六坊北町	2019.8.8	A	民間	集合住宅建設	36.2㎡	小野、奥津	遺跡あり	発掘調査
22		買来中学校遺跡	大字買来字門田	2019.8.21	A	公共	校舎建替え	10.7㎡	松浦、奥津	遺跡あり	発掘調査予定
23		浜遺跡	大在浜2丁目	2019.9.11～12	F	公共	学校建設（新設）	48.0㎡	松浦	遺跡なし	工事着工
24		地蔵原遺跡	大字小池原字五反田	2019.9.18	E	民間	宅地造成	16.4㎡	中西、奥津	遺跡なし	工事着工
25		買来条里跡	大字中尾	2019.9.24～2020.2.14	A	公共	農地耕作条件改善事業	107.0㎡	中西	遺跡なし	工事着工
26		柵遺跡	大字柵	2019.9.26	G	公共	道路拡幅工事	11.4㎡	小野、奥津	遺跡あり	発掘調査
27		横尾遺跡	横尾東町3丁目	2019.10.17	E	民間	集合住宅建設	22.6㎡	松浦、奥津	遺跡あり	工事着工
28		上野遺跡群	上野丘西	2019.10.29	A	民間	個人住宅建設	10.1㎡	中西	遺跡あり	工事着工
29		府内城・城下町	荷堀町73-1～3,73-5,74,75,76番地	2019.11.12	A	公共	整備工事	6.0㎡	小野、奥津	遺跡なし	工事着工
30		北の崎遺跡	大字墓木字道津	2019.11.14	E	民間	集合住宅建設	16.0㎡	松浦、奥津	遺跡あり	発掘調査
31		雄方・後遺跡	大字田原字水ヶ	2019.11.15	B	民間	集合住宅建設	29.0㎡	中西	遺跡なし	工事着工
32		上野遺跡群	大字上野丘東	2019.12.13	A	民間	集合住宅建設	29.0㎡	中西、奥津	遺跡あり	工事着工
33		中世大友府内町跡	跡町3丁目	2019.12.17	A	民間	宅地造成	9.1㎡	松浦、奥津	遺跡あり	協議中
34		米竹遺跡	大字小池原字五反田	2019.12.24	E	民間	個人住宅建設	7.6㎡	松浦、奥津	遺跡あり	発掘調査（米竹16次へ）
35		古国府遺跡群	大字永興字土毛	2019.12.27	A	民間	医療施設建設	9.6㎡	松浦、奥津	遺跡なし	工事着工
36		古国府遺跡群	大字羽屋字園	2020.1.22	A	民間	個人住宅建設	1.4㎡	松浦、奥津	遺跡なし	工事着工
37	5	古国府遺跡群（古国府24-2次）	大字古国府宇石橋	2020.1.23	A	民間	集合住宅建設	15.2㎡	松浦、奥津	遺跡なし	工事着工
38		中世大友府内町跡	金池町4丁目	2020.1.29	A	民間	集合住宅建設	18.6㎡	松浦、奥津	遺跡あり	発掘調査予定
39		中世大友府内町跡	長浜町2丁目	2020.2.6	A	民間	個人住宅	1.9㎡	松浦、奥津	遺跡あり	工事着工（一部工事立会）
40		政所遺跡	横田2丁目	2020.2.17	F	民間	集合住宅建設	5.4㎡	中西	遺跡なし	工事着工
41		米竹遺跡	大字千歳字米竹	2020.2.28	E	民間	宅地造成	11.9㎡	松浦、久保	遺跡あり	発掘調査（米竹15次へ）
42		狹野遺跡	大字狹野字新土井	2020.3.23	E	民間	集合住宅建設	17.7㎡	中西、奥津	遺跡あり	工事着工

第2表 令和元年度 試掘・確認調査一覧表

番号	報告番号	滞地名	調査日	所在地	地域	調査原因	種別	調査面積	担当者	調査結果	措置
1-3		の内城・城下町	2019.4.4	の内町1丁目	A	広場造成(高層開発)	公共	10.0㎡	小野・松浦	滞跡あり	工事終了
2		古田町遺跡群	2019.4.4	大字引野東八幡	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.1㎡	中西	滞跡あり	工事終了
4		津守遺跡	2019.4.4	大字津守	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.9㎡	中西	滞跡あり	工事終了
5		津守遺跡	2019.4.12	大字津守	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.3㎡	小野	滞跡あり	工事終了
6		猪野遺跡	2019.4.18	大字猪野寺西本堂	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	4.0㎡	小野	地盤あるも未検出	工事終了
7		楳尾遺跡	2019.4.19	楳尾東町1丁目	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.6㎡	松浦	地盤あるも未検出	工事終了
8		津守遺跡	2019.4.22	大字津守久門	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.4㎡	小野	滞跡あり	工事終了
9		猪野遺跡	2019.4.19	大字猪野寺中門	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.0㎡	小野	滞跡あり	工事終了
10		賀来寺聖跡	2019.4.25	大字賀来寺前	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.2㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
11		久原遺跡	2019.4.1	久原1丁目	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.6㎡	小野	滞跡あり	工事終了
12		中世大友府内跡	2019.5.7	元町	A	個人住宅(高層改修)	民間	6.1㎡	小野・兼津	滞跡なし	工事終了
13		津守遺跡	2019.4.4	大字津守横小路	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.1㎡	中西	滞跡あり	工事終了
14		津守遺跡	2019.5.8	大字津守横小路	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.4㎡	小野	地盤あるも未検出	工事終了
15		葛木遺跡	2019.5.10	大字葛木	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.0㎡	中西	滞跡あり	工事終了
16		猪野遺跡	2019.5.17	大字猪野寺南ノ平	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.6㎡	松浦	遺構面に達せず	工事終了
17		上野遺跡群	2019.5.29	大字上野字植山	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.1㎡	松浦	遺跡面に達せず	工事終了
18		賀来寺学校遺跡	2019.5.24	大字賀来	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.9㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
19		楳尾遺跡	2019.5.27	楳尾東町1丁目	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.6㎡	松浦	滞跡なし	工事終了
20		津守遺跡	2019.5.31	大字津守横小路	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.2㎡	松浦	地盤あるも未検出	工事終了
21		中世大友府内跡	2019.6.19	六坊北町	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.3㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
22		中世大友府内跡	2019.6.20	六坊北町	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.3㎡	小野	滞跡あり	工事終了
23		の内城・城下町	2019.6.19	明徳町	A	その他建物(トイレ)	公共	土層観察のみ	小野	遺跡面に達せず	工事終了
24		津守遺跡	2019.6.21	大字津守	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.0㎡	松浦	地盤あるも未検出	工事終了
25		の内城・城下町	2019.6.19～6.21	明徳町	A	電線ケーブル導管埋設工事	公共	土層観察のみ	松浦・兼津	滞跡あり	工事終了
26		二日川遺跡	2019.6.29	大字葛尾	E	宅地造成(倒壊復旧)	民間	土層観察のみ	松浦	滞跡あり	工事終了
27		中世大友府内跡	2019.7.16	長町	A	個人住宅(ラップ補修)	民間	12.0㎡	中西	滞跡なし	工事終了
28		の内城・城下町	2019.7.22	明徳町	A	公園造成	公共	0.0㎡	小野	滞跡なし	工事終了
29		丹生川/市泉聖跡	2019.8.5	大字堂字甲斐本	G	集合住宅(浄化槽設置)	民間	10.5㎡	小野・兼津	滞跡なし	工事終了
30		猪野遺跡	2019.8.7	大字猪野寺法光寺	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.3㎡	小野・兼津	滞跡あり	工事終了
31		羽田遺跡	2019.8.23	大字羽田中ノ木	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.2㎡	松浦	地盤あるも未検出	工事終了
32		米竹遺跡	2019.8.16	大字千歳字林地	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.2㎡	小野	遺跡面に達せず	工事終了
33		春野寺遺跡	2019.8.16	大字森町	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.9㎡	中西	地盤あるも未検出	工事終了
34		丹生川/市泉聖跡	2019.9.6	大字堂字北1北	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	4.2㎡	小野	遺跡面に達せず	工事終了
35		丹生川/市泉聖跡	2019.9.5	大字堂字上市	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	1.6㎡	小野	滞跡なし	工事終了
36		丹生川/市泉聖跡	2019.8.29	大字佐野字南	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.5㎡	松浦	滞跡なし	工事終了
37		久原遺跡	2019.9.3	久原中央	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.7㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
38		猪野遺跡	2019.9.13	大字猪野	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.7㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
39		浜中遺跡	2019.9.20	豊比寿町	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.5㎡	松浦	滞跡なし	工事終了
40		津守遺跡	2019.5.24	大字津守字外地	A	集合住宅(浄化槽設置)	民間	8.6㎡	中西	滞跡あり	工事終了
41		玉沢川/泉聖跡	2019.9.12	大字市字市山田	B	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.1㎡	中西	遺跡面に達せず	工事終了
42		津守遺跡	2019.9.9	大字津守字外地	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.4㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
43		丹生川/市泉聖跡	2019.10.24	大字堂字甲斐本	G	集合住宅(浄化槽設置)	民間	9.5㎡	小野・兼津	滞跡なし	工事終了
44		饗崎遺跡	2019.9.12	大字屋山字ヶ谷	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.0㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
45		饗崎遺跡	2019.10.18	大字松岡字井ノ瀬	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.6㎡	小野・兼津	地盤あるも未検出	工事終了
46		羽田遺跡	2019.10.21	大字羽田中ノ木	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	28.0㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
47		津守遺跡	2019.10.31	大字津守	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.0㎡	中西	滞跡なし	工事終了
48		猪野遺跡	2019.10.31	大字猪野寺中野	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.0㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
49		放生寺遺跡	2019.10.31	大字町湯原	A	農道整備	公共	土層観察のみ	中西	滞跡なし	工事終了
50		葛木遺跡	2019.11.13	大字葛木字西上	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.6㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
51		久原遺跡	2019.11.12	久原中町2丁目	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.4㎡	松浦	地盤あるも未検出	工事終了
52		丹生川/市泉聖跡	2019.11.19	大字丹生川字土取	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.2㎡	松浦	滞跡なし	工事終了
53		楳尾遺跡	2019.11.21	楳尾東町1丁目	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.0㎡	松浦	地盤あるも未検出	工事終了
54		稲遺跡	2019.11.19	大字稲字大倉原敷	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.4㎡	中西	地盤あるも未検出	工事終了
55		津守遺跡	2019.11.25	大字津守字ツヤ	A	その他建物(保育園)	民間	17.9㎡	小野・中西	滞跡あり	工事終了
56		上野遺跡群・竜王堀遺跡	2019.11.22	上野丘東	A	集合住宅(浄化槽設置)	民間	4.0㎡	松浦	地盤あるも未検出	工事終了
57		丹生川/市泉聖跡	2019.11.24	大字佐野字南	G	その他建物(事務所)	民間	6.8㎡	小野	滞跡なし	工事終了
58		猪野遺跡	2019.12.9	大字猪野寺南土井	E	その他建物(事務所)	民間	12.9㎡	小野・兼津	地盤あるも未検出	工事終了
59		津守遺跡	2019.12.11	大字津守字横小路	A	集合住宅(浄化槽設置)	民間	12.2㎡	松浦・兼津	滞跡あり	工事終了
60		稲遺跡	2019.12.9	大字稲	G	道路建設	公共	土層観察のみ	小野・兼津	滞跡なし	工事終了
61		久原遺跡	2019.12.20	久原中町4丁目	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.2㎡	松浦	地盤あるも未検出	工事終了
62		羽田遺跡	2020.1.22	大字羽田中ノ木	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.3㎡	小野	滞跡あり	工事終了
63		羽田遺跡	2020.1.28	大字羽田字種田	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.6㎡	小野	滞跡あり	工事終了
64		坂/市泉聖跡	2020.2.3	坂/市申5丁目	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.2㎡	小野	地盤あるも未検出	工事終了
65		羽田遺跡	2020.1.27	大字丹島字植山	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.6㎡	小野	滞跡あり	工事終了
66		羽田遺跡	2020.2.10	大字羽田字種田	A	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.3㎡	小野	滞跡あり	工事終了
67		二日川遺跡	2020.2.7	大字葛尾猪野野原	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.3㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
68		久原東之助遺跡	2020.2.20	久原北	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	1.8㎡	中西	滞跡あり	工事終了
69		清水遺跡	2020.2.28	大字毛井字久保田	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.0㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
70		二日川遺跡	2020.2.6	大字稲穂野野原	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.9㎡	中西	滞跡あり	工事終了
71		米竹遺跡	2020.3.11	大字千歳字林地	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.2㎡	中西	滞跡あり	工事終了
72		二日川遺跡	2020.2.6	大字稲穂野野原	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.2㎡	小野	地盤あるも未検出	工事終了
73		丹生川/市泉聖跡	2020.3.12	大字里字宇	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	2.2㎡	中西	地盤あるも未検出	工事終了
74		楳尾遺跡	2020.3.13	楳尾東町1丁目	E	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.6㎡	中西	滞跡あり	工事終了
75		坂/市泉聖跡	2020.3.17	坂/市申中央5丁目	G	個人住宅(浄化槽設置)	民間	1.9㎡	松浦	滞跡あり	工事終了
76		西上/原遺跡	2020.3.25	大字角子原字上原	F	個人住宅(浄化槽設置)	民間	3.1㎡	中西	地盤あるも未検出	工事終了

第3表 令和元年度 立会調査一覧表



1.中世大友府内町跡 第138次

2.中世大友府内町跡 第142次、第145次

3.中世大友府内町跡 第143次

4.上野遺跡群 第24次

5.古国府遺跡群 第24次

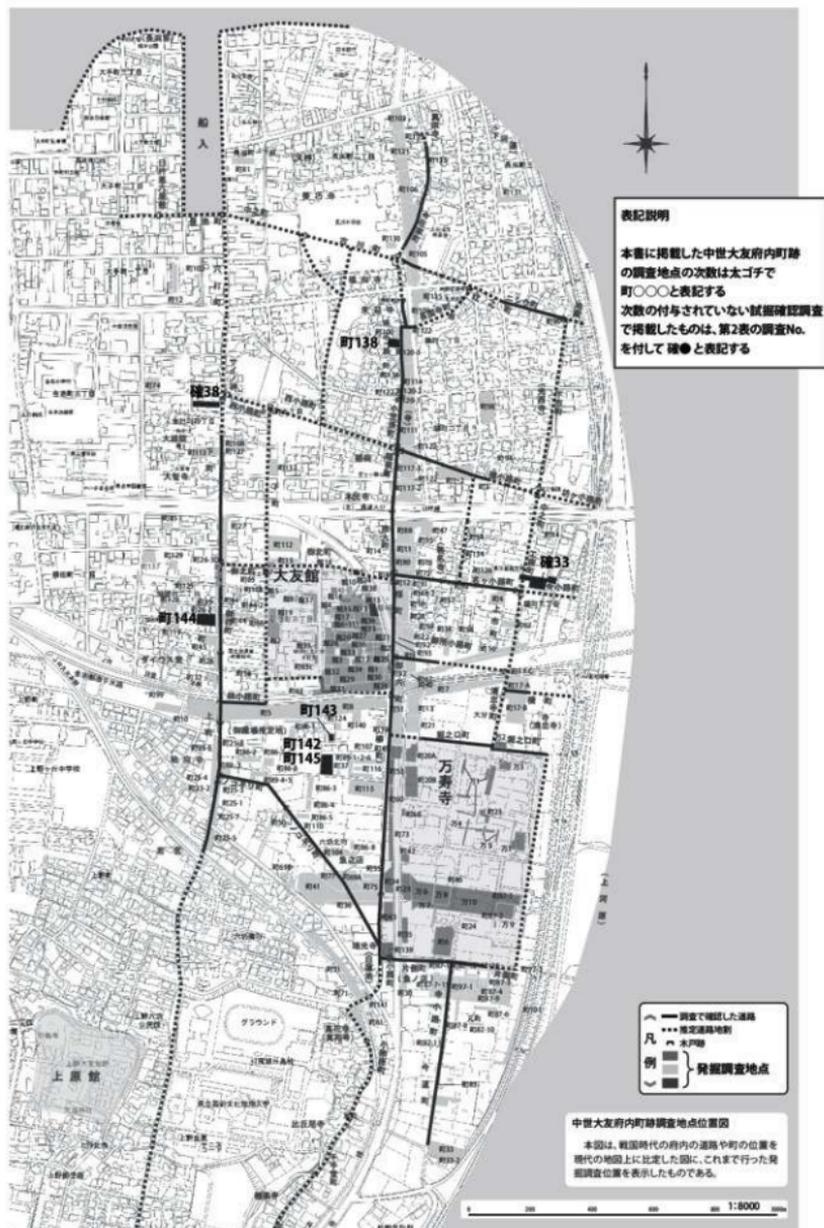
6.津守遺跡 第4次

7.津守遺跡 第5次

8.柞原八幡宮遺跡群 第2次

9.北の崎遺跡 第3次

第2図 報告対象遺跡位置図 (1/250,000・1/50,000) (番号は第3章の掲載順)



第3図 中世大友府内町跡調査地点位置図 (1/8000)

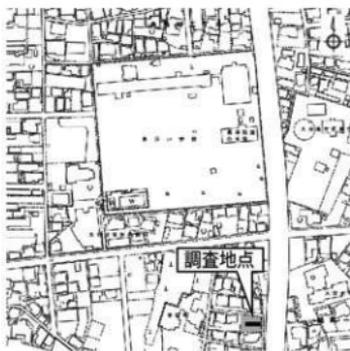
第2章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告

1. 中世大友府内町跡 第138次調査

調査面積 60.0㎡ 調査期間 19.3.4～19.3.22 地域 A 調査担当 松浦

1. 遺跡の概要 (第4図・第5図)

調査地点は、第2南北街路沿いの小笠原町に位置する。周辺では、北側隣接地の町100次調査(2014概報)において、2時期に渡る礎石建物跡が確認され、礎石の大きさ等から有力者の屋敷地が想定されている。また、第2南北街路とその東側を調査した町120-3次では、道路跡に面して礎石建物跡や地下式倉庫と想定される石積遺構が確認されており、同じく屋敷地が想定されている状況である。調査地では、福祉施設の建設が計画され、遺跡へ影響のない工法によって遺構の保存は図られている。しかし、周辺で確認されている第2南北街路の西端や、想定される屋敷内部の様相が確認できる地点であったことから、それらを確認する目的で、土地所有者の許可を得て部分的な確認調査を行った。

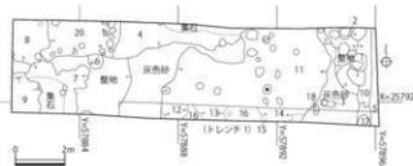


第4図 調査地点位置図 (1/5000)

2. 調査の概要 (第6図～第9図)

基本層序は、現地表面下約0.5mまで造成土及び近世以降の遺物包含層で、その下に、暗灰色粘質土や黄灰褐色粘質土の整地層が存在する。一部断ち割り(トレンチ2及び道路部分)を行って整地層の下位まで掘り下げたところ、さらに大きく2層の整地層と自然堆積層を基盤とする遺構を確認したため(第9図)、計4面の遺構面であることを確認した。

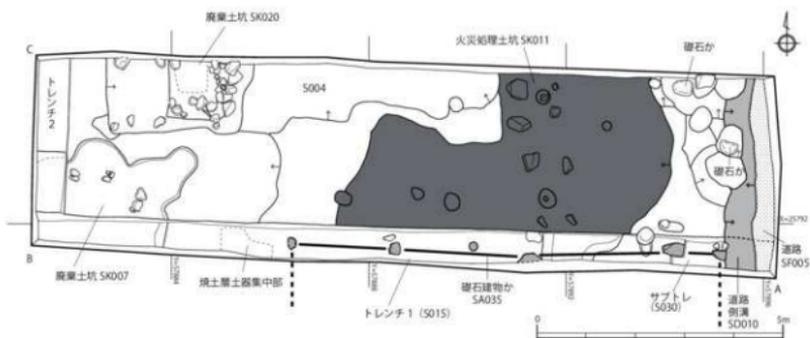
検出した遺構は、礎石建物跡、火災処理土坑、廃棄土坑、道路状遺構などである(第6図・第7図)。道路状遺構SF005は、南北方向で、西端のみを確認した。推定第2南北街路に位置していることから第2南北街路の西端と考えられる。道路状遺構は、道路部分の断ち割りにおける土層観察の結果、3面の道路面(第8図21・22層、24・25層、26層)と、下層で自然堆積層を掘り込む溝状遺構の可能性のある堆積(第8図27層)を確認しており、計4面の遺構面と対応する可能性がある。また、道路状遺構SF005に西接して溝状遺構SD010が位置しており、この溝状遺構SD010は道路側溝と考えられる。町120-3次では第2南北街路の東端が確認されているため、その確認された東端との距離は推定約5.0mである(第5図)。また道路近くでは、径0.3m程度の礎石と径0.15m程度の礎石を確認しており、礎石建物になる可能性も考えられる。調査区の東側には埋土に焼土と炭化物を多く含む火災処理土坑SK011が広



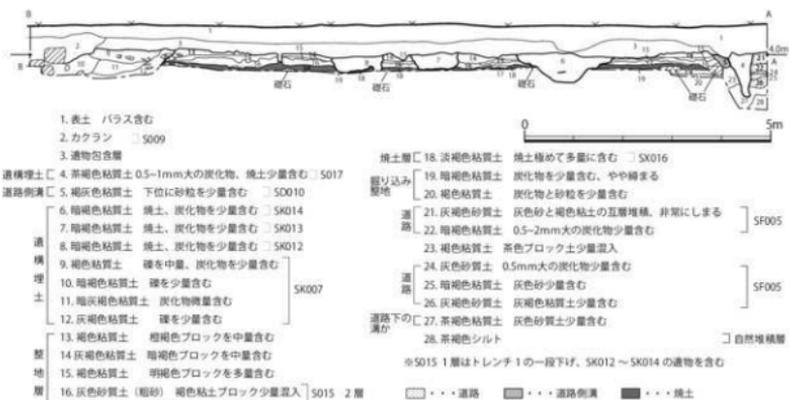
第6図 138次遺構配置図 (1/200)



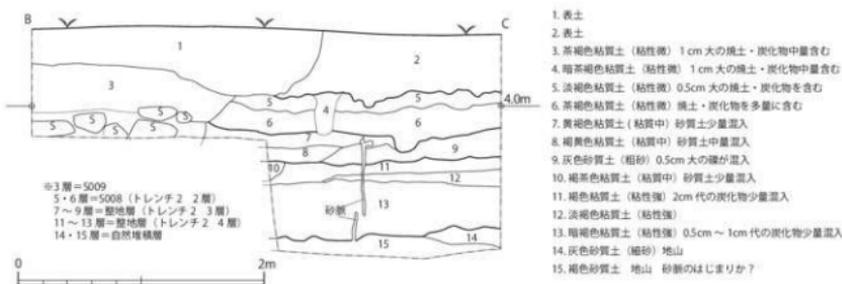
第5図 138次周辺調査位置図 (1/600)



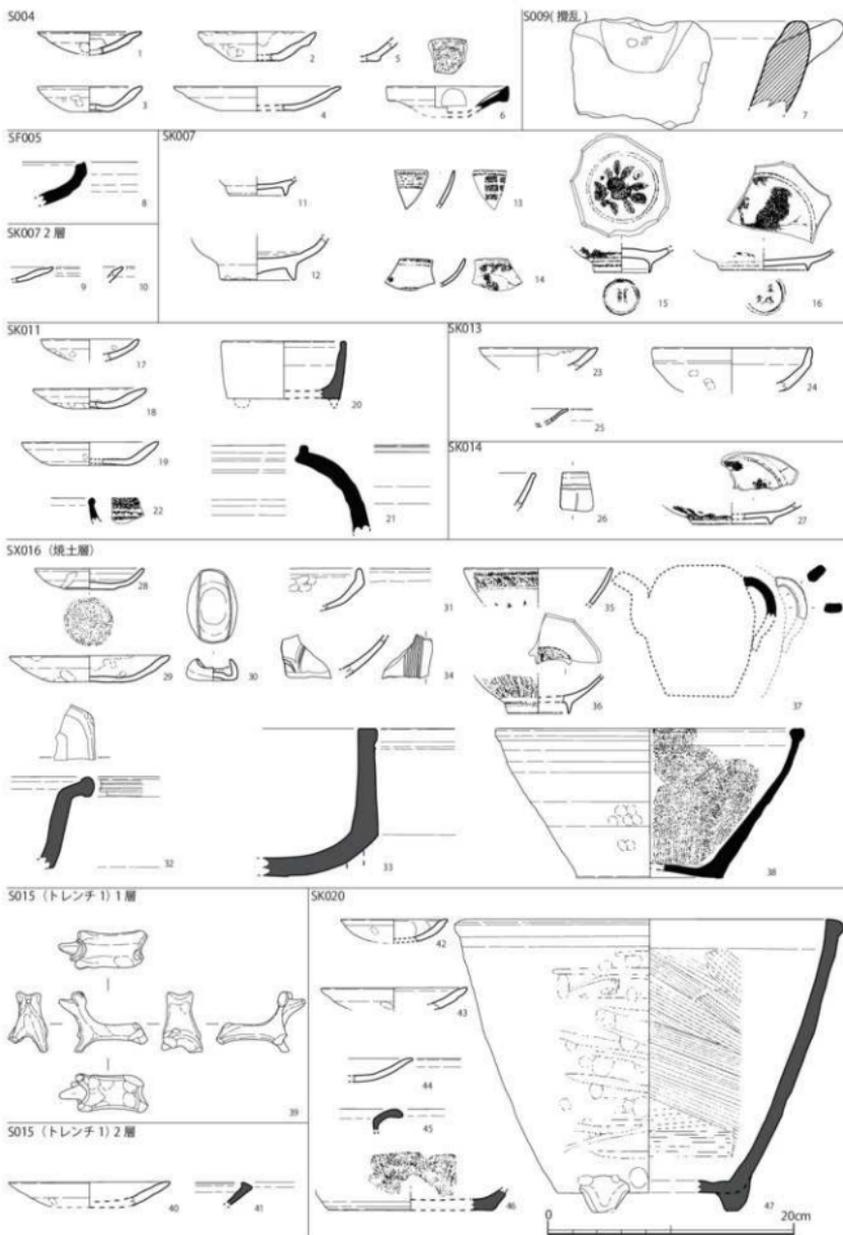
第7図 全体遺構図 (1/100)



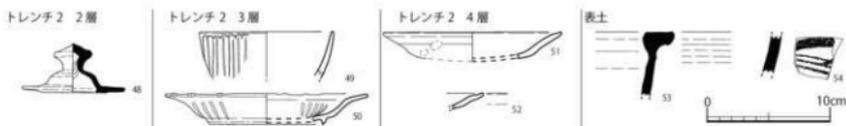
第8図 南壁土層断面図 (1/100) ※図はトレス時に反転



第9図 西壁土層断面図 (1/40)



第10図 出土遺物 (1/4)



第11図 出土遺物 (1/4)

がっており、京都系土師器や備前焼土屋裏、磁州窯系陶器壺のほか、礎石として使用されていた可能性のある石も含まれている。また廃棄土坑は主に西側に展開しており、廃棄土坑SK007や廃棄土坑SK020では、こぶし大から人頭大の礫が多く含まれるとともに、景德鎮窯系青花や瓦質深鉢形火鉢、備前焼裏片などが多く出土している。それら遺構の基盤となる整地層の一部にトレンチ1を設定して掘り下げたところ、整地層の下位で、焼土層SX016及び、その焼土層に覆われる礎石建物跡の一部と考えられる礎石列SA035を確認した。焼土層SX016は、厚さ0.1mほどで、上位から掘り込まれる遺構(SF005、SD010、SK007、SK012～014)の部分以外はトレンチ1全面で確認している。礎石列SA035を直接覆っており、京都系土師器のほか、被熱した瓦質土器などを含んでいる。また、一部礎石の近くでは、焼けた柱の痕跡の可能性があると柱状の炭化物を確認している。この礎石の周辺を一部さらに掘り下げたところ(サブトレ、S030で遺物取り上げ)、礎石には個別の掘方は確認できなかった。土層観察では複数の礎石を含め、ある程度の範囲を掘り下げてから、0.05m～0.1m厚程度の整地を2～3回施したのち、最上位の整地の敷設とともに礎石が据えられている状況(第8図19・20層)を確認しており、いわゆる掘り込み整地といえる遺作を行っている。整地が施された範囲は、調査区及びトレンチの狭小さから明確にすることはできていないが、礎石建物の範囲と同一となることが想定される。これら礎石建物跡と考えられる礎石列SA035は、前述の焼土層SX016に覆われていることから、火災による焼失を受けたものと考えられる。礎石の基盤となる整地S030からは大内系土師器片などが出土している。

火災処理土坑SK011と礎石を覆う焼土層SX016は、整地層を間に挟んでいるため2時期に分かれる火災の痕跡と考えられるが、ともに京都系土師器などが出土しており16世紀後半から末頃に比定できるため、その時期差については明確ではない。北接する町100次では、2時期の焼土層が確認されているため、その2時期の焼土層に火災処理土坑と礎石を覆う焼土層がそれぞれ対応する可能性も考えられる。

3. 出土遺物 (第10図・第11図)

S004・S009・SK011・SX016・S015-1層出土遺物 (第10図・第4表)

5は華南三彩の水注の底部である。体部外面には明緑色の釉がかかる。6は中国産黒軸陶器の皿である。7は安山岩製の鉢である。片口から内面にかけて調整段階での磨きにより摩耗が顕著である。22は磁州窯の壺である。表土出土の54と同一個体の可能性がある。28は搬入品の土師器の小皿である。30は京都系土師器の耳皿である。37は華南三彩の水注の把手である。外面に明緑色の釉がかかる。38は中国南部産焼締陶器挫鉢である。2次被熱を受けており、一部変色する。内面に使用痕は確認できない。39は犬形土製品である。胴部長が5.3cmと大型であり、大分県内の出土例としては最大級である。他の出土例によく見られる刺突による目の表現がなされていない。

その他の出土遺物 (第11図・第4表)

48は東南アジア産陶器の蓋である。外面には暗茶褐色の釉がかかるが、2次被熱を受けている。53は中国南部産焼締陶器鉢A類である。54は磁州窯製品の体部である。22と同一個体の可能性がある。

4. まとめ

今回の調査では、4面の遺構面と2時期の火災処理層を確認した。特に焼土層に覆われた礎石建物跡は、一定程度掘り込んだのちに整地を行い、整地とともに礎石を据え置いている。このことは屋敷内における建物の基礎構造において、大友氏館跡などで考えられている建物基礎としての掘り込み整地が小笠原町の屋敷でも行われていた可能性を示すものであり、今後、町屋における建物の基礎構造及び建物配置のあり方について、検討していく必要がある。

(松浦・山本)

記録番号	遺構番号	種別	材料	法量 (cm) / 口径/最大径			色調範囲	粘土	調査・採削		備考	分類時期	図番号
				高さ	幅	厚			内蓋	外蓋			
第10図-1	S004	土師器	皿	(8.5)	18+	-	椀茶褐色	緑黄	ナデ	指サエ後ナデ	全体にスガが付着	ⅡC	002
第10図-2	S004	土師器	皿	(8.5)	2.0	-	黄褐色	黒色粒子を含む	ナデ	指サエ後ナデ		ⅡC	003
第10図-3	S004	土師器	皿	(9.5)	2.0	-	椀茶褐色	緑黄	ナデ	指サエ後ナデ	内面にスガが付着	ⅡC	004
第10図-4	S004	土師器	皿	(13.6)	2.0	-	褐色	緑黄	ナデ	指サエ後ナデ	2次焼跡を受ける	ⅡC	001
第10図-5	S004	埴土製三彩	水注	-	16+	-	外筒茶色 内筒茶色	緑黄	指サエ	陶胎			005
第10図-6	S004	中国系陶器類	皿	(9.8)	18+	-	外筒茶色 内蓋	緑黄	陶胎	ナデ	外蓋陶胎		006
第10図-7	S009	石製湯鉢	鉢	-	7+	-	楕円形状				伊山産		001
第10図-8	S005	漆器陶器	楕円鉢	-	40+	-	赤茶褐色	白色粒子をわずかに含む	ナデ	ナデ	自然焼かか		001
第10図-9	S007 2層	土師器	皿	-	12+	-	褐色	長石をわずかに含む	ナデ	指サエ後ナデ		ⅡC	001
第10図-10	S007 2層	土師器	皿	-	10+	-	灰白色	緑黄	ナデ	ナデ		ⅡC	002
第10図-11	S007	白磁	皿	-	13+	4.5	乳白色	黒色粒子を含む	陶胎	陶胎	法隆院物	森田君	001
第10図-12	S007	青磁	皿	-	35+	5.8	淡青緑色	黒色粒子を含む、粒い	陶胎	陶胎	法隆院物	森田君	002
第10図-13	S007	磨製磁器系青花	皿	-	30+	-	失透釉	乳白色、緑釉	陶胎	陶胎		小野C	005
第10図-14	S007	磨製磁器系青花	皿	-	19+	-	失透釉	乳白色	陶胎	陶胎	外面に遺草文	小野C	006
第10図-15	S007	磨製磁器系青花	皿	-	24+	4.5	透明釉	乳白色	陶胎	陶胎	法隆院物、「富貴住尊」	小野C	003
第10図-16	S007	磨製磁器系青花	皿	-	15+	(7)	透明釉	乳白色	陶胎	陶胎	法隆院物		004
第10図-17	S011	土師器	皿	(8)	17+	-	茶褐色	黒色粒子を含む	ナデ	指サエ後ナデ		ⅡC	002
第10図-18	S011	土師器	皿	(9.1)	12	-	黄灰色	黄褐色をわずかに含む	ナデ	指サエ後ナデ	明確なナデが二層	ⅡC	003
第10図-19	S011	土師器	皿	(11)	19	-	灰白色	緑黄	ナデ	指サエ後ナデ		ⅡC	005
第10図-20	S011	瓦葺土器	香炉	(9.8)	4.7	(9.2)	椀茶褐色	緑黄	ナデ	ミガキ	外面に丁草文ミガキ	香炉A	002
第10図-21	S011	漆器陶器	水屋裏	-	71+	-	椀茶褐色	黒色粒子を含む	ナデ	ナデ			001
第10図-22	S011	磁州系灰青磁	皿	-	2+	-	茶褐色	緑黄	陶胎	陶胎	2次焼跡を受ける		006
第10図-23	S013	土師器	皿	(9.8)	17	-	黄灰色	角閃石をわずかに含む	ナデ	ナデ	2次焼跡を受ける、口縁部にスガが付着	ⅡC	002
第10図-24	S013	土師器	皿	(12.8)	35+	-	黄褐色	緑黄	ナデ	指サエ後ナデ		ⅡC	001
第10図-25	S013	白磁	皿	-	11+	-	乳白色	白色、黒色粒子を含む	陶胎	陶胎	法隆院式瓦胎	森田君	003
第10図-26	S014	青磁	皿	-	24+	-	淡青緑色	白色、黒色粒子を含む	陶胎	陶胎	外面に楕円遺草文		001
第10図-27	S014	磨製磁器系青花	皿	-	15+	(6.2)	透明釉	乳白色	陶胎	陶胎		002	
第10図-28	S016	土師器	小皿	8.8	1.8	4.0	黄褐色	黄褐色、黒色粒子を含む	ナデ	ナデ	糸切り		001
第10図-29	S016	土師器	皿	12.9	2.1	-	褐色 (口縁部、口蓋部)	黒色粒子をわずかに含む	ナデ	指サエ後ナデ	2層にスガが付着	ⅡC	008
第10図-30	S016	土師器	耳皿	2.4	1.8	3.1	淡黄褐色	金雲母、赤色粒子を含む	ナデ	ナデ	スガ付着	耳皿C	002
第10図-31	S016	土師器	皿	-	34+	-	淡灰褐色	黒色粒子中量	ナデ後指サエ	ナデ	外面にスガが厚く付着	ⅡC	009
第10図-32	S016	瓦葺土器	方孔洗鉢形火鉢	-	7+	-	明黄褐色	白色粒子、黒色粒子を含む	ナデ、ミガキ	ミガキ	2次焼跡により外表面赤褐色化		006
第10図-33	S016	瓦葺土器	洗鉢形火鉢	-	12+	-	褐色	緑黄	ナデ	ミガキ	2次焼跡により外表面赤褐色化		005
第10図-34	S016	同系系青磁	皿	-	30+	-	透明釉	石雲母を含む	陶胎	陶胎	外面に明確な遺草文	大塚1層	013
第10図-35	S016	磨製磁器系青花	皿	(12)	29+	-	透明釉 底灰赤	乳白色、緑釉	陶胎	陶胎	外面に遺草文	小野C	011
第10図-36	S016	磨製磁器系青花	皿	-	29+	(4.9)	透明釉	乳白色、緑釉	陶胎	陶胎	法隆院物	小野C	012
第10図-37	S016	埴土製三彩	水注	-	-	-	明緑色	緑黄	陶胎	陶胎			007
第10図-38	S016	中国系陶器類	楕鉢	(24.7)	12.2	(11.8)	椀茶褐色	長石をわずかに含む	ナデ	指サエ後ナデ			004
第10図-39	S015 1層	土師器	犬型土製品	7.2	4.9	3.1	灰白色	黄褐色を含む	指サエ	ナデ			001
第10図-40	S015 2層	土師器	皿	13.0	19+	-	黄褐色	長石、角閃石をわずかに含む	ナデ	指サエ後ナデ		ⅡC	001
第10図-41	S015 2層	瓦葺土器	防鼠瓦遺鉢	-	18+	-	灰白色	石雲母を含む	ナデ	不明	2次焼跡により顔面割れ		002
第10図-42	S020	土師器	皿	8.6	20+	-	外蓋茶色 内蓋白 灰色	褐色粒子をわずかに含む	ナデ	指サエ後ナデ	2次焼跡を受ける	ⅡC	002
第10図-43	S020	土師器	皿	15.7	18+	-	褐色	角閃石をわずかに含む	ナデ	指サエ後ナデ		ⅡC	003
第10図-44	S020	土師器	皿	-	19+	-	褐色	黒色粒子をわずかに含む	ナデ	指サエ後ナデ	2次焼跡を受ける	ⅡC	001
第10図-45	S020	瓦葺土器	鉢	-	16+	-	淡褐色	白色粒子を含む	ナデ	ナデ	西部門遺草文	榎B1	004
第10図-46	S020	瓦葺土器	遺鉢	-	15+	(13.4)	黄灰色	黒色粒子をわずかに含む	ナデ	ナデ、タズリ	2次焼跡により外表面赤褐色化		001
第10図-47	S020	瓦葺土器	深鉢形火鉢	(29)	24	(15)	楕円形	角閃石をわずかに含む	ナデ、ハタ	ハタ、ミガキ	外面に斜め方向のハタ	深鉢形火鉢	006-007
第11図-48	トレンチ2 3層	東洋アジア系陶器	皿	4.3	3.9	-	椀茶褐色	長石、赤色粒子を含む	ナデ	陶胎	2次焼跡を受ける		001
第11図-49	トレンチ2 3層	青磁	皿	(10.9)	37+	-	青緑色	白色	陶胎	陶胎	覆鉢が陶胎化	上田朝助	002
第11図-50	トレンチ2 3層	白磁	皿	(16.4)	2.5	(9.2)	乳白色	白色、黒色粒子を含む	陶胎	陶胎	法隆院物	森田君	001
第11図-51	トレンチ2 4層	土師器	皿	(14.4)	24+	-	褐色	黒色粒子を含む	ナデ	指サエ後ナデ		ⅡC	001
第11図-52	トレンチ2 4層	土師器	皿	-	13+	-	淡褐色	黒色粒子を含む	ナデ	指サエ後ナデ		ⅡC	002
第11図-53	表土	中国系陶器類	鉢	-	52+	-	椀茶褐色	白色粒子、黒色粒子を含む	ナデ	ナデ		ⅡA	001
第11図-54	表土	磁州系灰青磁	皿	-	-	-	茶褐色	緑黄	陶胎	陶胎	2次焼跡により顔面割れ		002

第4表 遺物観察表



検出状況 全景 (東より)



南壁土層 (西より)



西壁土層 (東より)



南壁土層 道路部分 (北より)



焼土検出状況 (西より)



S015 トレンチ犬型土製品出土状況 (西より)



焼土層遺物出土状況 (東より)



礎石及び整地層検出状況 (東より)

2. 中世大友府内町跡 第142次・145次調査

第142次調査：調査面積	66.9㎡	調査期間	19.1.17～19.1.21	地域	A	調査担当	松浦・奥津
第145-1次調査：調査面積	36.2㎡	調査期間	19.8.8	地域	A	調査担当	小野・奥津
第145-2次調査：調査面積	24.0㎡	調査期間	19.12.3～19.12.12	地域	A	調査担当	松浦

1. 遺跡の概要（第12図・第13図）

調査地点は、大友氏遺跡を構成する「推定御蔵場跡」として「保護を要する範囲」とされたエリア内に位置する。周辺で行われた町86次、町89次の調査成果から、16世紀後半には外郭施設によって囲われた空間内に建物等が配置されている様相が想定されている（第13図）。

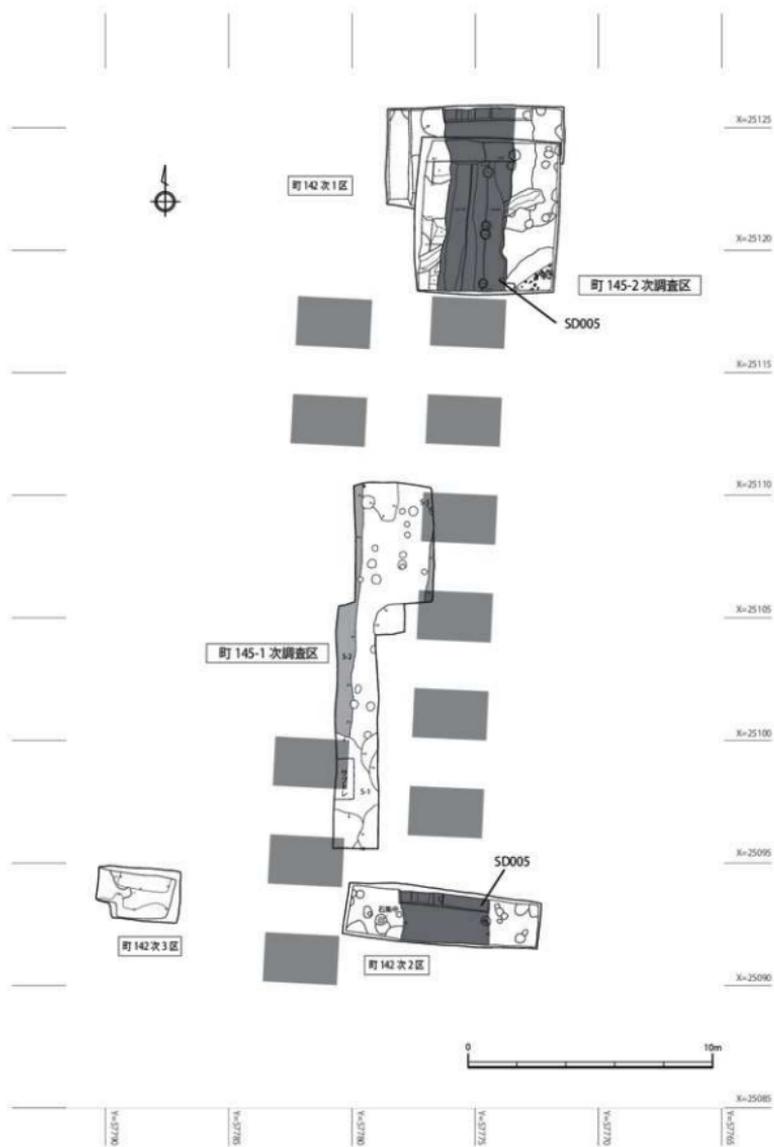
調査地点において、集合住宅建設が計画されたが、保護を要する範囲内であることから、遺跡への影響を最小限にする必要があった。そのため、遺跡が確認できる深度や、推定御蔵場跡内の様相の確認と南側外郭施設の状態を確認するために142次調査を行った（第14図）。その結果、現地表面下約0.3mで、南北方向の溝状遺構などの遺構群が確認されたため、集合住宅の建設にあたっては遺跡への影響がないように工法変更を行い遺跡の保存を図った。しかし、浄化槽については、遺跡への影響を回避することができなかった。そのため、可能な限り遺構のない箇所に設置するために、浄化槽設置可能箇所を探す目的で145-1次調査を行った。しかし、全面的に遺構が確認されたことから、協議の結果、142次調査で確認された溝状遺構の一部において、その遺構範囲内に設置することとした。その設置箇所については、開発者の協力のもと記録保存を行うこととなったため、145-2次調査として調査を行った。



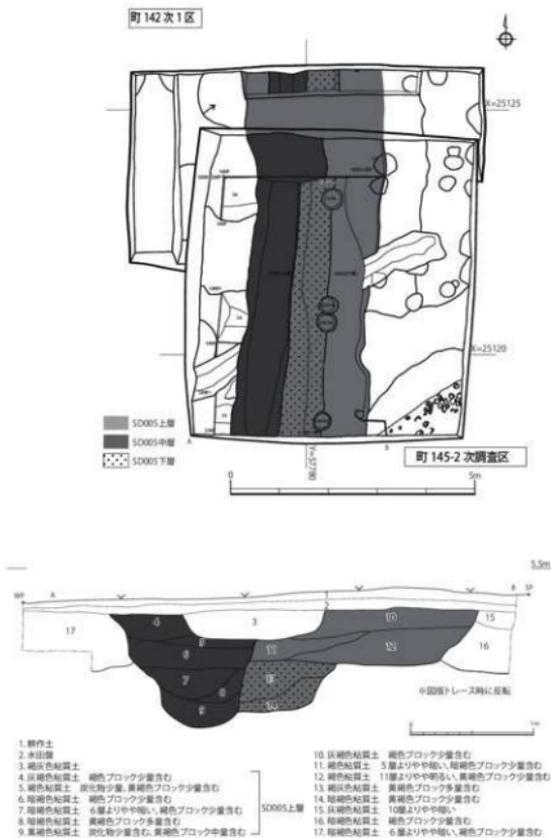
第12図 調査地点位置図 (1/5000)



第13図 142次・145次周辺調査区配置図 (1/1000)



第14図 142次・145次調査区配置図(1/200)

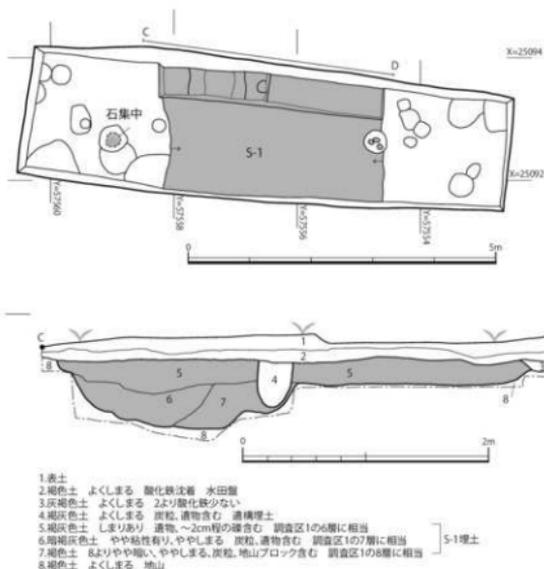


第15図 142次1区・145-2次調査区 全体遺構図 (1/100)・145-2次SDO05・南壁土層断面図 (1/40)

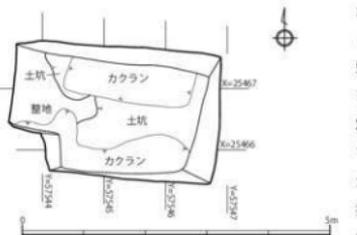
2. 調査の概要 (第14図～第18図)

基本層序は、現地表面下約0.3mまで耕作土及び水田盤で、その直下に、褐灰色粘質土の整地層が存在する。142次1区では一部断ち削りを行って整地層の下位まで掘り下げたところ、約0.3mの整地層の下位で、自然堆積層である黄褐色シルトが存在し、その上面から掘り込む遺構も確認した。

検出した遺構は、溝状遺構、柱穴、土坑などである。推定御蔵場跡内の様相を確認する目的で対象地の北側に設定した142次1区では、南北方向の溝状遺構 (SDO05、142次ではS-1として調査) を確認し、対象地の南側の142次2区でも、SDO05の延長と考えられる南北溝 (142次ではS-1として調査) を確認した。145-2次調査 (第15図) では、この溝状遺構 (SDO05) 内に浄化槽を設置するための記録保存調査を行った。SDO05は最大幅約2.6m、最大深度は約0.7mであり、土層観察の結果、少なくとも2回の掘り返しが認められ、上層、中層、下層と3時期にわたって継続して掘り返しな



第16図 第142次2区 全体遺構図 (1/80)・北壁土層断面図 (1/40)



第17図 第142次3区 全体遺構図 (1/80)

がら使用されていたものと考えられる。流水痕跡でもないことから施設を区画する溝と考えられる。遺物は15世紀末から16世紀初頭のロクロ目土師器坏が出土しており、京都系土師器は出土していない。また、SD005の中層掘削後に柵状遺構SA010を検出した。SD005中層掘削前に段下げ及び再検出を行った際には柱穴は確認できておらず、柵状遺構SA010はSD005の下層を切っていることから、柵状遺構SA010はSD005中層とSD005下層の間の時期に構築されたものと考えられる。溝状遺構SD005と同じく施設を区画する機能を有しているものと考えられ、溝状遺構で区画する時期の間に柵状遺構で区画する時期があるものと推定される。145-1

次(第18図)では、142次1区・145-2次と142次2区で確認した溝状遺構SD005と並行する南北方向の溝状遺構(145-1次S2)を確認した。溝状遺構(145-1次S2)からは遺物が出土していないが、それを切る145-1次の土坑S-1から京都系土師器が出土しており、溝状遺構(145-1次S2)はそれ以前の遺構であるため、SD005と同時期である可能性は考えられる。

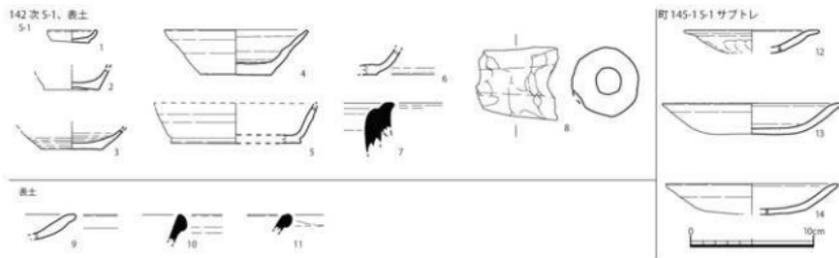
柱穴は溝状遺構SD005を切る柱穴が大半である。調査区の狭小のために建物を復元することはできなかったが、深さ約0.4mを測るものや、一部礎石の根幹石の可能性あるレキの詰まった柱穴も確認できており、建物の一部を構成する柱穴と考えられ、周辺には建物が展開していたものと考えられる。遺物が出土していないため、明確な時期は不明である。

そのほか、142次2区(第16図)では、推定御蔵場跡の南側外郭状況を確認する目的もあったが、東西方向の溝状遺構など南側外郭に関連するような遺構は確認できなかった。142次3区(第17図)は、142次2区で南側外郭に関連する遺構が確認できなかったため、再度南側外郭を確認するために設定した。その結果、整地層及び土坑は検出したものの、南側がカクランによる削平を受けていたこともあり、南側外郭に関連する遺構は確認できなかった。

町145-1次



第18図 第145-1次 遺構配置図 (1/100)
 ・土層模式図 (1/40)



第19図 142次 (S-1, 表土)、145-1次 (S-1サブトレ) 出土遺物 (1/4)

3. 出土遺物 (第19図・第20図・第5表)

142次 S-1出土遺物 (第19図)

1は大内式の極小皿である。底部系切りで色調は淡白灰色である。2・3は坏Bである。4～6は坏Aである。4は底部から体部にかけての立ち上がり部に、工具によるナデ痕跡が顕著であり、丁寧な仕上げである。5は2次被熱を受けている。7は常滑焼の甕である。8は甕の羽口である。使用により被熱しており、一部は還元が著しい。

142次 表土出土遺物 (第19図)

11は中国南部産焼締陶器鉢のB類である。

145次 SD005上層出土遺物 (第20図)

1は坏Bである。2・3は東播系の捏鉢である。3は内面が使用により摩耗している。4は亀山焼の甕である。体部外面と口縁部上部に格子目状のタタキを施す。6は瓦質土器の捏鉢である。外面には縦方向のハケ、内面には横方向のハケを施す。7は中国産白磁碗のD類である。

145次 SA010b出土遺物 (第20図・第5表)

8は中国産白磁碗のD類である。

4. まとめ

調査の結果、15世紀末から16世紀初頭の南北溝と、溝より新しく、建物を構成すると考えられる柱穴群を確認した。南北溝は時期的に16世紀後半の推定御藏場として空間利用される前のものであり、御藏場以前に区画を伴う施設が存在していたことを示している。また柱穴群は出土遺物がないため明確な時期が不明であるが、南北溝を切ることから16世紀初頭以後であり、御藏場に関連する建物である可能性もある。また、今回は南側外邦に関連する遺構を確認することができなかった。南側の現道路の南側で調査を行った町86-3次や町115次でも南側外邦に関連する遺構は確認されていないため、現道路の下位に取まるものと考えられる。今後、より広い範囲を調査することができれば、御藏場内部の建物配置などより内部の様相について判明すると思われるため、今後の調査に期待する。(松浦・山本)



第20図 145-2次 (SD005、SA010b) 出土遺物 (1/4)

調査番号	遺構番号	種類	形状	位置 (N/E)	辺長 (m)	埋没深さ (m)	土色・土質	出土品	調査・遺物		備考	分類時期	附番号
									内面	外面			
第1902-1	142次 S-1	土障壁	壁小曲	4.0	1.0	3.0	淡灰白色	白色粘土、赤色粘土	凹陥ナデ	凹陥ナデ	糸切り、大内式		001
第1902-2	142次 S-1	土障壁	坪	—	1.6+0	4.5	暗褐色	菅母、赤色粘土、白色粘土	凹陥ナデ	凹陥ナデ	糸切り、菅母表層材により割傷	PF6	002
第1902-3	142次 S-1	土障壁	坪	—	1.6+0	5.0	暗褐色	菅母、赤色粘土	凹陥ナデ	凹陥ナデ	糸切り、暗褐色を呈し	PF6	003
第1902-4	142次 S-1	土障壁	坪	(11.7)	3.7	5.7	赤褐色	菅母少量、白色粘土、石葉少量	凹陥ナデ	凹陥ナデ	菅母から表面にかけての粘土上層にナデが露出	PF4	004
第1902-5	142次 S-1	土障壁	坪	—	3.0+0	10.5	赤褐色	白色粘土、赤色粘土	凹陥ナデ	凹陥ナデ	糸切り、2次被褥により露出	PF4	005
第1902-6	142次 S-1	土障壁	坪	—	2.1+0	—	暗褐色	白色粘土、赤色粘土	凹陥ナデ	凹陥ナデ	糸切り	PF4	006
第1902-7	142次 S-1	土障壁	壁	—	4.0+0	—	茶褐色	黒色粘土	ナデ	ナデ	菅母	008	
第1902-8	142次 S-1	土築法	樋口	6.5+0	3.9	1.6	暗褐色	菅母、長石、黒色粘土、白色粘土	ナデ	ナデ	菅母による被褥で覆われてる	009	
第1902-9	142次 赤土	土障壁	坪	—	2.0	—	淡褐色	粘土	ナデ	ナデ、オサエ		001	
第1902-10	142次 赤土	土障壁	坪	—	2.3+0	—	淡青灰色	白色粘土	ヨコナデ	ヨコナデ	菅母	004	
第1902-11	142次 赤土	中庭厚板基礎	跡	—	1.3+0	—	茶褐色	暗灰色	ナデ	ナデ	外面に自然触か	008	
第1902-12	145-2次 S-1 サブレンナ	土障壁	坪	14.6	2.6	6.2	淡茶白色	角閃石、白色粘土	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ		001	
第1902-13	145-2次 S-1 サブレンナ	土障壁	坪	(11.0)	1.9+0	—	淡茶白色	角閃石、長石	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ		002	
第1902-14	145-2次 S-1 サブレンナ	土障壁	坪	(14.0)	2.5+0	—	淡茶白色	角閃石、長石	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ		003	
第2002-1	145-2次 SD005上層	土障壁	坪	(12.0)	3.1	(6.8)	褐色	菅母、角閃石	ナデ	ナデ	割断跡、内面ナデ消し	PF6b	002
第2002-2	145-2次 SD005上層	土障壁	坪	—	1.5+0	—	暗青灰色	粘土	ヨコナデ	ヨコナデ	菅母	009	
第2002-3	145-2次 SD005上層	土障壁	坪	—	1.9+0	—	青灰色	白色粘土	ナデ	ナデ	菅母、使用により内面の調査跡	007	
第2002-4	145-2次 SD005上層	土障壁	壁	—	—	—	暗青灰色	長石、白色粘土	ナデ	ナデ、タタキ	掘山溝	001+004	
第2002-5	145-2次 SD005上層	土障壁	坪	—	1.0+0	—	赤褐色	長石	ナデ	ナデ		004	
第2002-6	145-2次 SD005上層	土障壁	坪	(17.6)	3.5+0	—	淡灰褐色	長石	ヨコナデ	タテノク		008+010	
第2002-7	145-2次 SD005上層	白磁	瓶	—	2.7+0	—	灰白色	黒色粘土	瓶跡	瓶跡	口縁部割	大車約(X-28)	011
第2002-8	145-2次 SA010b	白磁	瓶	(10.6)	2.4+0	—	灰灰白色	黒色粘土	瓶跡	瓶跡、ケズリ	口縁部割	大車約(X-28)	001

第5表 町142・145次遺物観察表



第145-2次調査区 SD005 (南より)



第145-2次調査区 SD005上層 (北より)



第145-1次調査区 S-2 (南より)



第142-2次調査区 全景 (西より)

3. 中世大友府内町跡 第143次調査

調査面積 18.6㎡ 調査期間 19.7.25 地域 A 調査担当 松浦

1. 遺跡の概要 (第21図)

調査地点は、「推定御蔵場跡」内、北側外郭付近と想定される。周辺では、西側約100mの地点の町5次や町86-1次で16世紀後半の推定御蔵場の推定北側外郭溝が確認され、御蔵場を囲うと推定されている(第13図)。また、それより古い15世紀末～16世紀前半の道路側溝もしくは屋敷地等の区画溝と推定される東西溝も確認されている(第13図)。今回の調査地点も、16世紀後半の推定北側外郭溝の推定線上及び15世紀末～16世紀前半の道路側溝の推定線上に位置しているため、外郭溝や道路側溝、屋敷地等の区画溝の検出が期待された。調査は、対象地内に1ヶ所、南北方向の調査区を設定して行った。



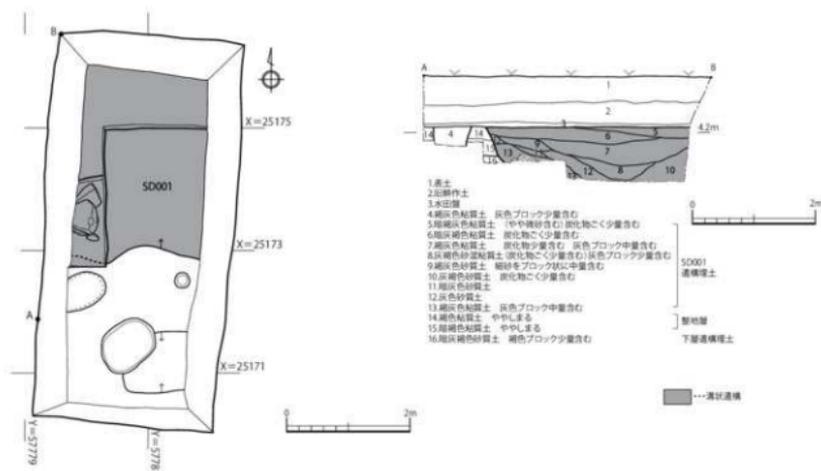
第21図 調査地点位置図 (1/5000)

2. 調査の概要 (第22図)

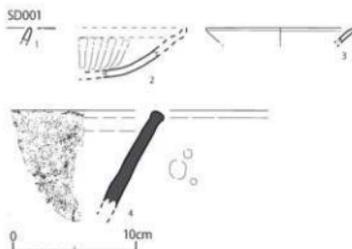
基本層序は、現地表面下約0.8mまでは表土及び旧耕作土であり、その下位で、整地層と考えられる褐色粘質土と、その上から掘り込む東西方向の溝状遺構(SD001)や、土坑を確認した(第22図)。また、約0.2mの厚さの整地層の下位にも遺構と思われる堆積土を確認しており、2面以上の遺構面が確認できた。

溝状遺構(SD001)は、南肩のみを検出しており、北肩は調査区外に延びる。検出した長さは約2.0m、幅は約3.2mを測る。土層観察の結果、1度ないしは2度の掘り返しが認められる。また、南肩の付近で、礎石に使用されていた可能性のある50～60cm大の一面が平坦な石が出土した。平坦面が水平を保っておらず、溝の肩にやや沿うような状況で出土しているため、原位置は留めていないと推定され、周辺から溝内に廃棄されたものと考えられる。

遺物は、ロクロ目土師器と思われる土師器破片、備前焼陶片、瓦質土器搔鉢などが出土しており、15世紀末から16世紀前半の遺構と考えられる。



第22図 全体遺構図・南壁土層断面図 (1/80)



第23図 出土遺物 (1/4)

3. 出土遺物 (第23図・第6表)

SD001出土遺物

2は中国産青磁の盤である。内面に蓮弁を施す。3は中国産白磁皿のⅨ類である。4は瓦質土器の鉢鉢である。内面は使用により摩耗している。

4. まとめ

今回の調査の結果、東西方向の溝状遺構を確認した。出土した遺物に京都系土師器は含まれておらず、ロクロ目土師器の可能性のある土師器坏片が出土し、それ以外の遺物も16世紀後半よりはやや古相の様相であるため、今回確認した東西溝は推定御蔵場北側外郭ではなく、町5次や町86-1次で確認されている、15世紀末から16世紀前半の道路側溝もしくは屋敷地等の区画溝の延長の可能性が考えられる。また、溝埋土からは、礎石に使われていた可能性のある石が溝内に廃棄された状況であったため、周辺に礎石を有する建物が建っていた可能性もあり、15世紀末から16世紀前半の様相についても土地利用の状況を確認していく必要がある。併せて、今後は、今回確認できなかった推定御蔵場跡の北外郭の延長を確認するなど、推定御蔵場跡の内部及び周辺の解明にも努めていく必要がある。(松浦・山本)

図版番号	遺構番号	種別	器種	径長 (cm) / 口径 / 最大径 / 最大幅	高さ / 底径 / 最大厚	色調胎土	胎土	調整・装飾		備考	分類時期	R番号	
								内面	外面				
第23図-1	S-1	土師器	坏	—	1.1+a	—	赤橙褐色	赤色粒子	回転ナデ	回転ナデ		坏B	002
第23図-2	S-1	青磁	盤	—	2.2+a	—	明緑色	黒色粒子	施粒	施粒			004
第23図-3	S-1	白磁	皿	(12.2)	1.2+a	—	乳灰白色	黒色粒子	施粒	施粒	□縁部蝕削	大塚府分類Ⅸ類	001
第23図-4	S-1	瓦質土器	鉢鉢	(21.6)	8.0+a	—	暗灰色	白色粒子、黒色粒子	ヨコナデ	指オサエ後ナデ	10条1單位の窪目、□縁部分が肥厚する		003

第6表 遺物観察表



調査区検出状況全景 (南より)



調査区掘削状況全景 (南より)



西壁土層 (東より)



SD001土層 (東より)

4. 上野遺跡群 第24次調査

調査面積 72.2㎡ 調査期間 19.7.16～19.8.14 地域 A 調査担当 小野

1. 遺跡の概要 (第24図)

上野遺跡群は、市街地南側に東西方向に延びる舌状台地上に所在する。上野台地は、東側が標高30m、今回の調査地点が位置する西側は標高70mを測る段上となり、台地上は、天喜元年(1053年)には高国府と呼ばれ、宇佐八幡領として所領化されていたことが考えられる。

今回の調査地点東側には、上野廃寺跡(上野遺跡群第5・9次調査)があり、8世紀の基壇状遺構や、9世紀前半の大型掘立柱建物跡が確認され、調査地点の北側には、飯盛塚古墳が位置している。近年では、平成26年度に北側で第21次調査が行われ、16世紀後半の京都系土師器の出土が見られた。



第24図 調査地点位置図 (1/5000)

2. 調査の概要 (第25図～第28図)

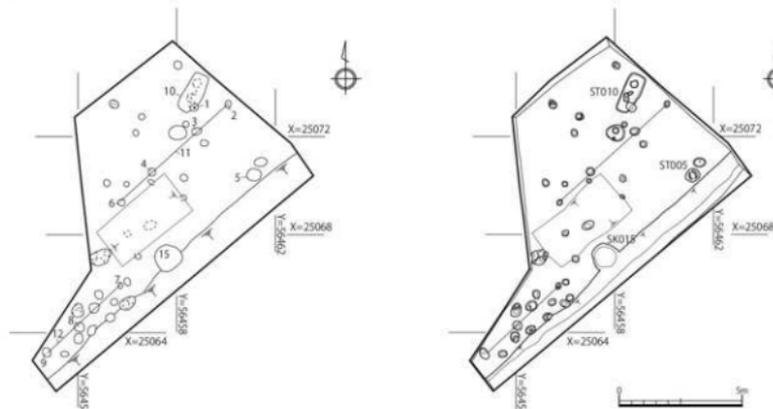
今回の調査は、宅地造成が計画された際に4カ所の確認調査を行っている。密度は低いものの遺構が確認されたことから、遺跡が削平される道路部分のみを対象に記録保存のための調査を上野遺跡群第24次発掘調査として実施した。

また、確認調査では、ピットや溝状遺構(S-1)が確認でき、溝状遺構については、近接する飯盛塚古墳に伴う可能性が想定された。

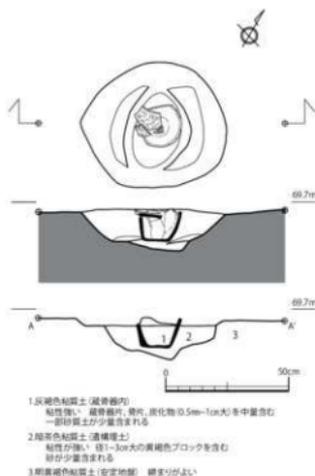
発掘調査の結果、現在の地表面から約50～60cmほどの厚さの表土を除去検出(標高:約69.7m)すると、ピットや土坑、柱穴列などの遺構を検出した。主な遺構は、壺の内部に骨片や炭化物が含まれる古代の蔵骨器が埋置された火葬墓(ST005)、刀子などの鉄製品が出土した土壌墓(ST010)である。ST005は、平面形状が不正円形で、土坑のほぼ中央部分に蔵骨器が置かれた底部から約12cm埋まった状態で検出された。土坑の断面形状は、逆台形を呈し底面が凸凹している。蔵骨器を埋めた土は、暗茶色土の単一層であったが、おそらく底面に



第25図 調査区配置図 (1/1500)

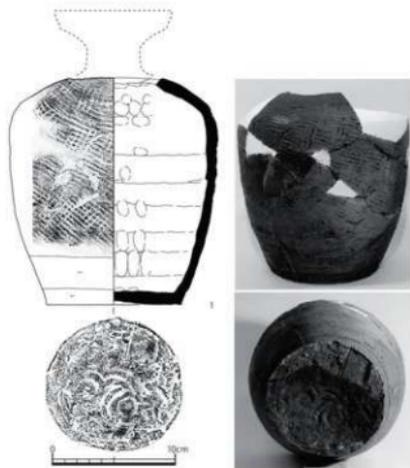


第26図 遺構配置図・全体遺構図 (1/200)

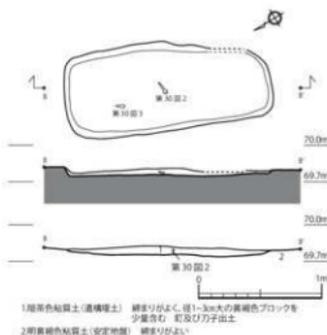


第27図 ST005 (蔵骨器) 個別遺構図 (1/20)

1. 赤褐色粘質土(蔵骨器内)
粘性強い。蔵骨器内(50cm×10cm)の中量含む
一部砂質土が少量含まれる
2. 暗茶色粘質土(遺構層上)
粘性が強い。径1-3cmの黄褐色ブロックを含む
砂が少量含まれる
3. 明黄褐色粘質土(安定地盤) 締まりがよい

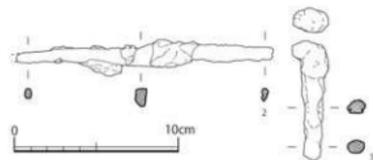


第29図 ST005出土遺物実測図 (1/4) 写真(右)



第28図 ST010 (土壌墓) 個別遺構図 (1/40)

1. 赤褐色粘質土(遺構層上) 締まりがよく、径1-3cmの黄褐色ブロックを少量含む。瓦片や刀子出土
2. 明黄褐色粘質土(安定地盤) 締まりがよい



第30図 ST010出土遺物 (1/3)

土を敷き蔵骨器を据えた後にさらに土を入れたものである。蔵骨器内には灰褐色土とともに、骨片や細かい炭化物が含まれていた。ST010は、平面形状が隅丸長方形で、逆台形を呈し底面は平らである。埋土には、暗茶色ブロック土が多く含まれており、人為的な埋戻しと考えられる。遺物は、底面付近において、刀子と鉄釘が出土した。刀子は副葬品の可能性が考えられる。

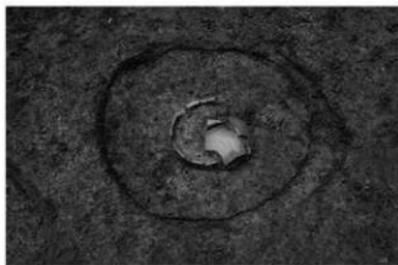
3. 出土遺物 (第29図・第30図)

1は、ST005から出土した須恵器壺である。頸部から底部付近までほぼ完形で残存しており、口縁部分は打ち欠いている。外面は、肩部分から底部までタタキによる調整、その下位には横方向のケズリが行われている。底部外面は、同心円状のタタキが見られる。体部内面は、壺を製作した際の積み上げ痕が明瞭に残る。2は、ST010から出土した刀子である。3も同じくST010から出土しており、方頭釘の可能性が考えられる。

4. まとめ (第31図・第32図)

今回の調査は、全体での遺物の出土量は非常に少ないが、見つかった蔵骨器は、熊本県荒尾産の特徴を持つ須恵器で、これまでに大分市内では確認されていない。調査区周辺には飯盛塚古墳が位置することや、第24次調査地点の成果から、長期間にわたり墓域であった可能性が示唆される重要な成果が得られた。

また確認調査で検出した溝状遺構 (第31図) について幅3.0m、深さ0.5mを測り、調査区の北側に位置する推定飯盛塚古墳の高まりに沿う周溝と考えたが、高まりの位置と溝状遺構の位置を測ると直径30mを超える大規模な古墳になる。现阶段では、高まりも溝状遺構も出土遺物などの根拠がある資料はなく、古墳を評価する上での判断材料とはならない。今後、周辺で行う調査の際には、墓域の範囲とともに飯盛塚古墳の検証も課題となる。(小野)



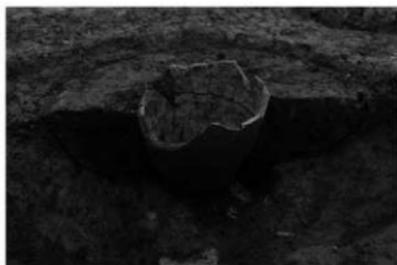
ST005蔵骨器出土状況（北西より）



ST005炭化物出土状況近景（南東より）



ST005遺物内土層断面状況（南東より）



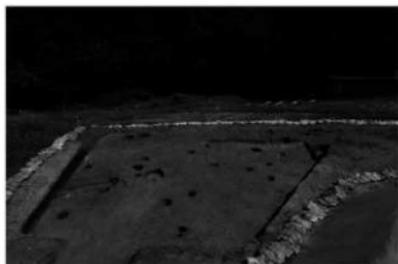
ST005土層断面状況①（南東より）



ST010遺物出土状況（北西より）



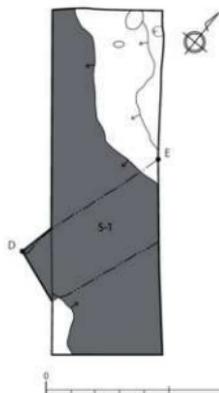
ST010完掘（北西より）



調査区全景①（北西より）



調査区全景②（北より）



確認調査地点から飯盛塚古墳を望む



第31図 試掘・確認調査 調査区4遺構配置図 (1/100) ならびにS-1西壁土層断面図 (1/40)



第32図 調査区配置図ならびに飯盛塚古墳位置図 (1/500)

5. 古国府遺跡群 第24次調査

調査面積 22.2㎡ 調査期間 19.7.16・20.1.23 地域 A 調査担当 松浦・奥津

1. 遺跡の概要 (第33図)

今回の調査地点は、古国府遺跡群の南側に位置する。今回の調査地の南側では、昭和53年度や昭和56年度に調査が行われており、13世紀を中心とした柱穴群、井戸、溝状遺構などや、その北側に展開する東西方向の5条の溝が確認され、そのほか条里に関連する可能性がある溝状遺構などが確認されている。

今回の調査は、個人住宅建設に伴う24-1次調査及び集合住宅建設に伴う24-2次調査であり、調査地は用水路を挟んで南北に隣接している。

2. 調査の概要 (第34図～第37図)

24-1次調査では、調査対象地南側に東西約4.1m×南北約1.7mの調査区を設定して行った。現地地表下約1.1m (標高約8.1m) まで造成土と水田耕作土が堆積しており、その下位にて褐灰色粘質土層を確認した。その上面において検出した結果、褐灰色粘質土は土坑の埋土であり、調査区のほぼ全体が複数切り合う土坑の埋土であることが判明した。遺構の深さを確認するため北側にサブトレンチを設けたところ、遺構の深度は約0.3mで、その下位で自然堆積層である黄褐色粘土層を確認した。遺物は、西端の土坑SK001から青磁片が出土しているほか、サブトレンチ内から、12世紀後半から13世紀代に比定される白色研磨土師器碗や白磁碗が出土している。サブトレンチから出土した土師器碗及び白磁碗は、サブトレンチ掘削時に出土したため、明確に出土した遺構を特定できるものではないが、北壁の土層観察で複数の土坑が切り合っている状況が確認できており、それら土坑からの出土と考えられる。調査区が狭小のため明確ではないものの、周辺に12～13世紀代の遺構が展開している可能性が示唆される。

24-2次調査では、調査対象地に調査区を3つ設定して行った。概ね現地地表下約0.7～0.8m (標高約8.2) まで造成土と旧水田耕作土であり、その下位にて自然堆積層である灰黄褐色シルト層を確認した。灰黄褐色シルトの上面で検出を行ったところ、大半が木の根痕であり、明確な遺構は確認できなかった。

3. まとめ

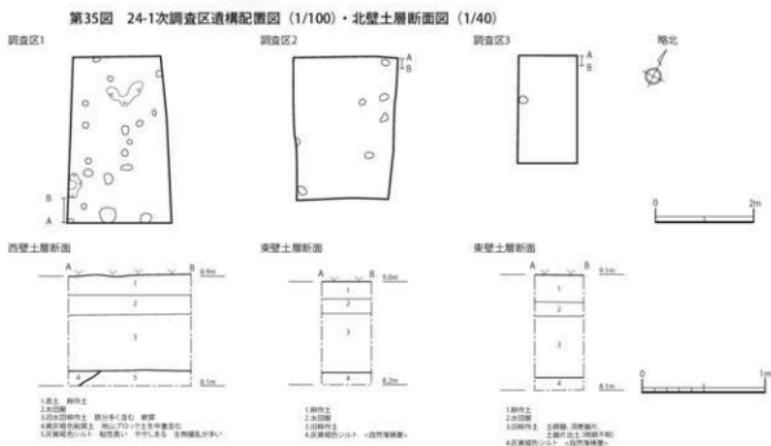
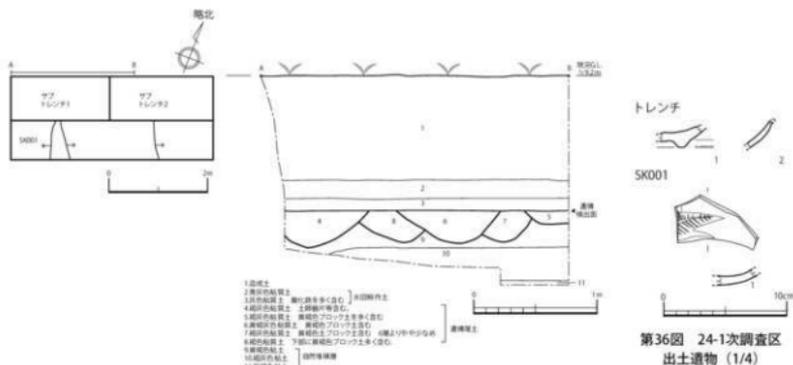
今回の調査では、用水路を挟んだ南北2箇所の地点において調査を行った結果、南側の24-1次調査では、明確な遺構を確認し、12～13世紀代の遺物が出土したのに対し、北側の24-2次調査では、明確な遺構は確認できず、遺物もほとんど出土しなかった。昭和53年度や昭和56年度に行われた南側での調査では、13世紀代を中心とした遺構群が展開しているとされ、南側の24-1次調査で検出された遺構はそれら遺構群に関連している可能性があるが、北側の24-2次調査地にまでは展開していない。したがって、24-1次調



第33図 調査地点位置図 (1/6000)



第34図 周辺調査地位位置図 (1/1000)



第37図 24-2次調査区1,2,3遺構配置図 (1/100)・土層断面図 (1/40)

査区と24-2次調査区の間には存在する用水路が13世紀代の遺構群を区画していたものを地刻として踏襲している可能性もあり、今後はそういった区画のための遺構を周辺で確認していく必要がある。(松浦・山本)



調査区検出状況全景 (東より)



北壁土層 (南より)

6. 津守遺跡 第4次調査

調査面積 38.0㎡ 調査期間 20.3.9～20.3.18 地域 A 調査担当 小野

1. 遺跡の概要 (第38図)

津守遺跡は、大分川右岸に位置し、東側には、神武天皇の御座船が碇を打って停泊した伝説が残る碇山が存在している。「津守」の地名は、大分川を交通路として利用していた際に、その管理などにあたる津守が置かれたことに起因する。古代には「津守郷」に属し、中世になると、津守郷は津守荘として荘園化し、治承4年(1180)の「皇嘉門院惣廻分状」に戸次荘とともに「ふこ つもり」と記されているものが史料上の初見である。津守荘には、熊野神社が鎮座しており、大友氏11代親著の頃の応永26年(1419)に津守荘が熊野山に寄進されたとき、現地管理業務を大友氏に委任していたことが史料に残されている。

これまでに、周辺では3カ所の発掘調査と多くの試掘・確認調査、立会を実施しており、大きく11世紀頃、13-14世紀頃、16世紀後半以降、近世の遺構が報告されている。特に、今回の調査地点周辺においては、中世前半期の遺物が出土する遺構が多く見られる。

平成27年度には、西側に隣接する土地において津守遺跡立会及び確認調査(「大分市埋蔵文化財調査概要報告2016 平成27年度版」掲載)を行っており、15世紀代と考えられる土師器環や小皿等を含む溝状遺構を2条確認している。

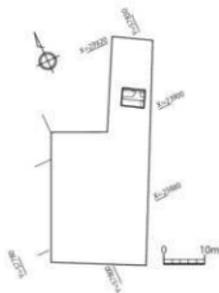
2. 調査の概要 (第39図～第43図)

今回の調査は、集合住宅建設に伴い設置する浄化槽部分の約30㎡(東西5.9m×南北5.0m)を対象とし、発掘調査を実施した。

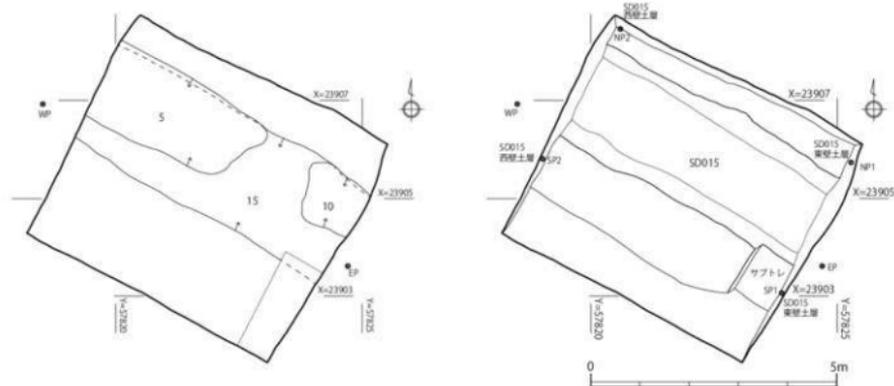
調査の結果、幅約1.5mを測る溝(SD005・010)と幅約2.2mを測る溝(SD015)の東西方向に延びる溝跡2条を検出した。調査区の基本層序は、現地表面から約0.5mの厚さの表土を掘削すると、その下位に約0.2mの遺物包含



第38図 調査地点位置図 (1/8000)

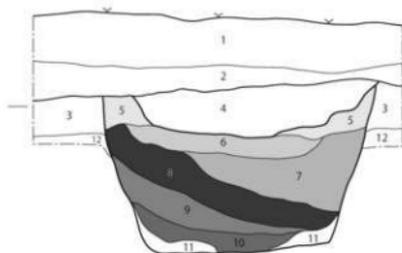


第39図 調査区配置図 (1/1200)



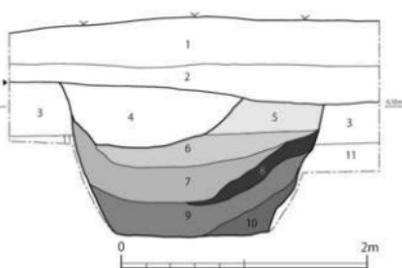
第40図 遺構配置図 全体遺構図 (1/100)

SD010・SD015 西壁土層断面図



1. バラス 埋戻し土（埋戻し土）
2. 埋戻し土（埋戻し土）
3. 埋戻し土（埋戻し土）
4. 埋戻し土（埋戻し土）
5. 埋戻し土（埋戻し土）
6. 埋戻し土（埋戻し土）
7. 埋戻し土（埋戻し土）
8. 埋戻し土（埋戻し土）
9. 埋戻し土（埋戻し土）
10. 埋戻し土（埋戻し土）
11. 埋戻し土（埋戻し土）

SD005・SD015 東壁土層断面図

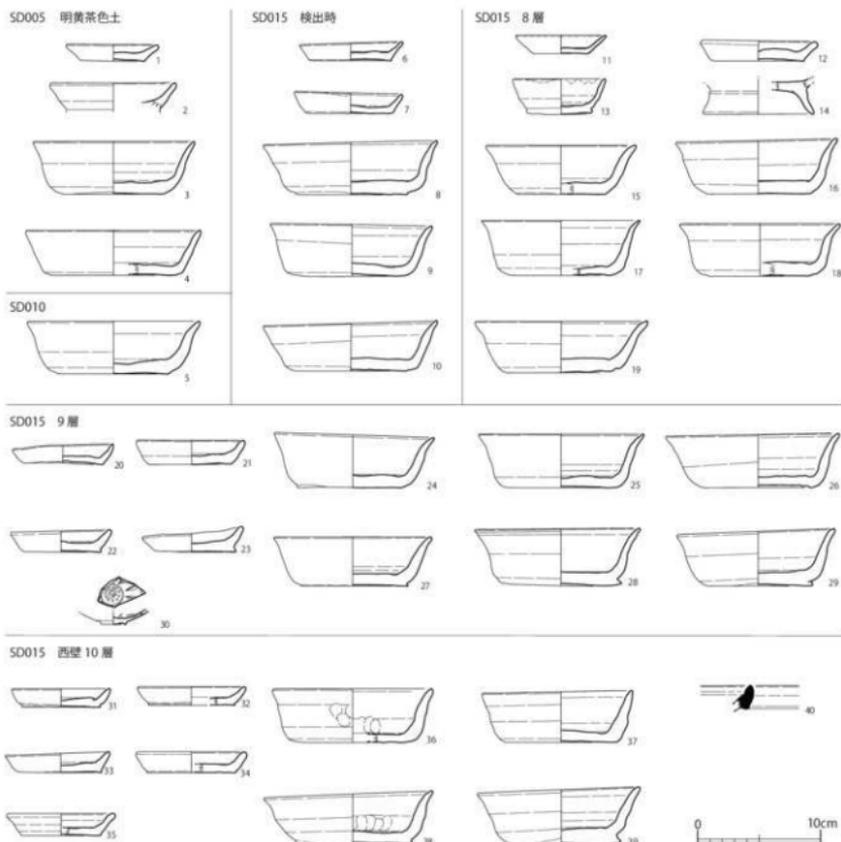


- 1～3層までは、埋戻しと同様である。
4. 埋戻し土（埋戻し土）
5. 埋戻し土（埋戻し土）
6. 埋戻し土（埋戻し土）
7. 埋戻し土（埋戻し土）
8. 埋戻し土（埋戻し土）
9. 埋戻し土（埋戻し土）
10. 埋戻し土（埋戻し土）
11. 埋戻し土（埋戻し土）

第41図 SD005・010・015土層断面図（1/40）



第42図 溝の推定ライン（1/1000）



第43図 SD005・010・015出土遺物 (1/4)

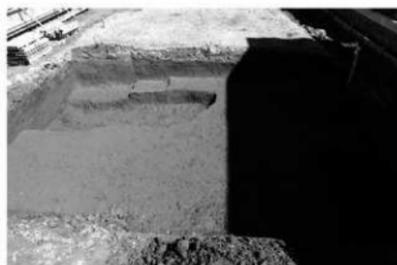
層が見られ、それらを除去すると明黄灰色シルト質土（安定地盤）が検出でき、その上面が遺構検出面（標高：約7.5m）である。

SD005・010は、西壁側にSD005が位置し、調査区中央で一度途切れ、東壁側にSD010が位置している。どちらも深さ約0.5mを測り、断面形状はなだらかなU字状を呈する。遺構埋土は、明黄色ブロック土を非常に多く含む明茶灰色土であり、SD005・010ともに埋土の特徴が類似しているため、一連の溝となり、途切れた部分は入口等の機能が考えられる。遺物は、第43図1～5で、15世紀中頃から後半の土師器環や小皿片が多く出土している。

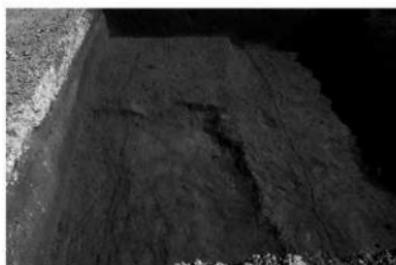
SD005・010の下位からは、深さ約1.2mを測るSD015が検出された。SD015の断面形状は、逆台形を呈し、土層観察より、南から北に向かって下がるように土が堆積していることが分かる。土層の中でも、炭化物や灰、焼土を多く含む第8層（暗茶灰色土層）付近が最も遺物の出土が多かった。第43図11～19は第8層、20～30は第9層、31～40は西壁第10層の出土遺物であるが、全体的にほぼ完形を呈する在地系土師器の環及び小皿が占めている。小皿は、口径7.3～9.0cm、器高1.4～2.1cm、底径5.2～6.6cmを測り、底部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がるものと、外傾しながら直線的に立ち上がる2種類が見られる。環は、口径12.2～14.2cm、器高3.7～4.7cm、底径8.0～10.0cmを測り、口縁



SD005・010検出状況（南より）



SD005・010完掘状況（南より）



SD015検出状況（西より）



SD015完掘状況（西より）



SD005・010・015東壁土層（西より）



SD005・010・015西壁土層（東より）

端部が体部に比べて細くなっているものと、体部から口縁端部までほぼ同じ厚みで立ち上がる2種類に分けることができる。これらの土師器は、概ね15世紀中頃から後半に帰属される。また、図示はしていないが白磁碗Ⅳ類や30の青白磁皿など、中世前半期の陶磁器が極少量含まれていた。

3. まとめ

今回確認した遺構は、土層の堆積状況や遺物から、15世紀中頃から後半に埋没した堀と考えられ、南側から土を入れほぼ一括で人工的に埋めている状況と言える。堀跡の規模は、東側が約15m先で実施した浄化槽立会箇所まで続き、西側は平成27年度調査で確認した南北溝の可能性もある。また、それらを結ぶと、一辺が約60m以上の方形を呈することが考えられ、屋敷等の堀と想定される。調査区周辺では近年、開発が多く見られ、今回堀と想定したラインの内側において調査をする可能性も出てくるため、堀跡内部の状況も鑑みて判断する必要がある。（小野）

図録番号	遺物番号	種別	形状	法量 (mm) (口径/最大径)			色調・紋様	胎土	調査・分析		備考	分期時期	図番号
				口径/最大径	法量/最大径	法量/最大径			内面	外面			
第4302-1	SC005	土師器	小皿	7.3	5.2	1.4	淡茶白色、一部淡色・黄赤	角閃石、赤色粒子少量含む	凹陥ナデ後ヨコナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し		小皿A	003
第4302-2	SC005	土師器	扁舟	(10.2)	(2.7)	-	くすんだ淡茶白色	角閃石、石炭、赤色を含む	凹陥ナデ、ヨコナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し	1/2焼成	扁舟A2	004
第4302-3	SC005	土師器	杯	(12.9)	4.3	8.0	淡茶褐色	角閃石、石炭、赤色粒子含む	凹陥ナデ、ヨコナデ、タテナデ上げ	凹陥ナデ	1/2焼成	杯A	001
第4302-4	SC005	土師器	杯	(14.2)	3.7	10.0	褐色	角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し	1/2焼成	杯A	005
第4302-5	SD010	土師器	杯	(14.0)	4.3	9.0	淡茶褐色	角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ、見込みナデ	凹陥糸切り磨し後ナデ	1/2焼成	杯A	002
第4302-6	SD015 秋山跡	土師器	小皿	8.3	1.5	6.5	淡茶褐色	長石、赤色粒子	凹陥ナデ、見込みナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し、後ナデ		小皿A	007
第4302-7	SD015 秋山跡	土師器	小皿	8.7	1.8	6.7	内面：赤茶褐色 外面：淡茶褐色	角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ、見込み凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し後ナデ	外面に板状圧痕あり	小皿A	006
第4302-8	SD015 秋山跡	土師器	杯	14.1	4.4	9.1	褐色	長石、赤色粒子	凹陥ナデ、ヨコナデ、見込みナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し後ナデ消し		杯A	001
第4302-9	SD015 秋山跡	土師器	杯	13.1	4.3	8.9	淡茶褐色	角閃石、赤色粒子を多く含む	凹陥ナデ、樽底状ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し後ナデ	外面に板状圧痕あり	杯A	001
第4302-10	SD015 秋山跡	土師器	杯	14.1	4.1	8.0	褐色	長石、赤色粒子	凹陥ナデ、ヨコナデ、見込みナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し後ナデ	外面に板状圧痕あり	杯A	002
第4302-11	SD015 8層	白磁	皿	(7.3)	(4.4)	1.5	やや青みがかった 灰白色	白色、流涙は淡褐色、黒色粒子少量、磁鉄鉱	口だけ	口だけ、糸切り磨し磨削部分に磁鉄鉱	口縁部が微塵附	図録13～14c	011
第4302-12	SD015 8層	土師器	皿	9.0	1.6	6.7	淡茶褐色、外縁部は赤褐色	長石、角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ、見込みナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し、板状圧痕	見込み部分については(10)の寸型	小皿A	002
第4302-13	SD015 8層	土師器	灯明皿	(7.5)	5.3	2.9	淡茶褐色	石炭、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥糸切り磨し	口縁部内外面に磨付層	小皿A	001
第4302-14	SD015 8層	土師器	扁舟	(8.8)	2.9	-	明茶褐色	角閃石、赤色粒子、石炭	ヨコナデ	ヨコナデ	高さ約1センチ	扁舟A	001
第4302-15	SD015 8層	土師器	杯	(12.2)	4.0	(7.2)	淡茶褐色	角閃石、赤色粒子多い	凹陥ナデ、見込み樽底状ナデ	凹陥糸切り磨し後ナデ、板状圧痕		杯A	003
第4302-16	SD015 8層	土師器	杯	(13.9)	4.5	8.5	暗茶褐色	長石・赤色粒子・長石少量	凹陥ナデ、見込みナデ	凹陥糸切り磨し		杯A	001
第4302-17	SD015 8層	土師器	杯	(13.0)	4.5	(7.8)	褐色	赤色粒子	凹陥ナデ、見込みナデ	へうごり		杯A	002
第4302-18	SD015 8層	土師器	杯	(13.0)	4.3	(7.8)	淡茶褐色	角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ、見込みナデ	凹陥ナデ凹陥糸切り磨し、後ナデ		杯A	003
第4302-19	SD015 8層	土師器	杯	(14.0)	4.2	(9.0)	赤茶褐色	角閃石、赤色粒子、長石	凹陥ナデ、見込みナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し後ナデ、板状圧痕あり		杯A	004
第4302-20	SD015 9層	土師器	小皿	8.1	1.7	6.3	茶褐色	角閃石、長石、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し後ナデ		小皿A	007
第4302-21	SD015 9層	土師器	小皿	(8.7)	2.0	(1.7)	茶褐色	長石が多し、角閃石少量、赤色粒子微量	凹陥ナデ、見込みナデ、工具痕、樽底状ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し	2/3焼成	小皿A	010
第4302-22	SD015 9層	土師器	小皿	8.0	1.8	6.4	暗茶褐色	角閃石、長石、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し		小皿A	008
第4302-23	SD015 9層	土師器	小皿	8.1	2.1	6.6	明茶褐色	角閃石を多く含む、白色粒子、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し		小皿A	009
第4302-24	SD015 9層	土師器	杯	13.0	4.5	8.5	褐色	角閃石、赤色粒子を多く含む	凹陥ナデ	やや中位の凹陥糸切り磨し		杯A	002
第4302-25	SD015 9層	土師器	杯	(13.4)	4.4	(8.0)	明茶褐色土	角閃石、石炭、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し		杯A	006
第4302-26	SD015 9層	土師器	杯	(14.0)	4.4	8.8	明茶褐色	角閃石、石炭、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し		杯A	004
第4302-27	SD015 9層	土師器	杯	12.7	4.0	8.7	茶褐色	長石、角閃石、赤色粒子を多く含む	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し		杯A	001
第4302-28	SD015 9層	土師器	杯	(13.4)	4.7	9.4	淡茶褐色	角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し	1/2焼成、流涙のはみだしが斜縁部にかけているところあり	杯A	005
第4302-29	SD015 9層	土師器	杯	12.8	4.7	8.3	淡茶褐色	粒が大きい角閃石、赤色粒子を多く含む、白色粒子を含む	凹陥ナデ	凹陥糸切り磨し後板状圧痕	ほぼ球形、縁部が湾曲して口縁部が外反する	杯A	003
第4302-30	SD015 9層	青白磁	小皿	-	2.0	(1.0)	青白色	黒色粒子、磁、白色、流涙は茶褐色	胎あり	胎あり	流涙のみ、焼色は良好		011
第4302-31	SD015 西院10層	土師器	小皿	(8.0)	1.5	(6.4)	暗茶褐色	角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ、ナデ	凹陥ナデ後一部タテナデ上げ磨し	胎が不整形	小皿A	004
第4302-32	SD015 西院10層	土師器	小皿	(8.6)	1.5	(7.0)	暗茶褐色	角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し後板状圧痕	やや内湾意味	小皿A	006
第4302-33	SD015 西院10層	土師器	小皿	8.4	2.0	8.8	明茶褐色	角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し後へう		小皿A	005
第4302-34	SD015 西院10層	土師器	小皿	(9.0)	1.7	(7.2)	淡茶褐色	角閃石、長石、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し	縁部が非常に深い	小皿A	007
第4302-35	SD015 西院10層	土師器	小皿	(8.6)	1.8	(6.4)	淡茶褐色	角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ、見込みナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し後板状圧痕	大きく外反する	小皿A	005
第4302-36	SD015 西院10層	土師器	杯	(12.6)	4.4	8.4	淡褐色	角閃石、赤色粒子	凹陥ナデ、見込みナデ	凹陥ナデ、後押さへ、凹陥糸切り磨し、板状圧痕	1/2焼成	杯A	004
第4302-37	SD015 西院10層	土師器	杯	(12.2)	4.3	9.0	淡茶褐色	角閃石、赤色粒子を中量含む(外面には大きめの粒あり)	凹陥ナデ、見込みナデ不定方向	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し、板状圧痕		杯A	003
第4302-38	SD015 西院10層	土師器	杯	13.7	4.4	9.4	明茶褐色	角閃石、長石、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し、板状圧痕		杯A	001
第4302-39	SD015 西院10層	土師器	杯	13.2	4.7	8.5	明茶褐色	角閃石、長石、赤色粒子	凹陥ナデ	凹陥ナデ、凹陥糸切り磨し		杯A	002
第4302-40	SD015 西院10層	染織具 流涙器	鉢	-	(1.9)	-	内面が明褐色、外面が淡色	白色粒子を多く含む	凹陥ナデ	凹陥ナデ	口縁のみ		008

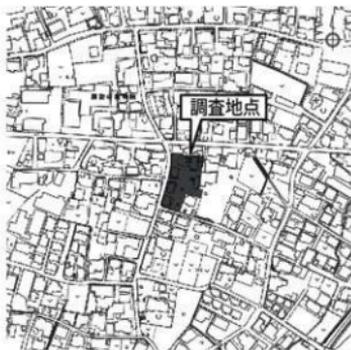
第7表 遺物観察表

7. 津守遺跡 第5次調査

調査面積 28.0㎡ 調査期間 19.5.16 地域 A 調査担当 中西・奥津

1. 遺跡の概要 (第44図)

津守遺跡は、大分川左岸に展開する下郡遺跡群、羽田遺跡の南側に所在し、碗山を中心に広がる遺跡である。遺跡は、碗山の西側を通るJR豊肥本線の東側と西側で現況の土地利用に大きな差が見られ、東側は水田が広がっているため開発等が少なく調査の履歴が極めて少ない地域である。一方、西側は住宅地が密集しており、これまで大小の開発等に伴い調査を実施し、古代から近世を中心とした遺構・遺物が確認されている。この西側域中央よりやや南側には、徳川家康の孫として知られる松平忠直の館跡が周知遺跡（松平忠直津守館跡）として所在し、この遺跡の北東部の市道沿いには「松平忠直居館跡」の石塔が建っている。第5次調査地点は、市道を挟んだこの石塔南側、松平忠直津守館跡の北東部に位置する。



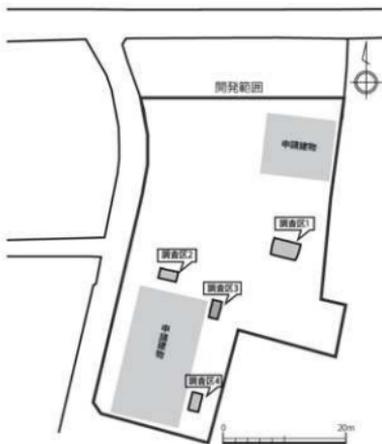
第44図 調査地点位置図 (1/5000)

2. 調査の概要 (第45図~第52図)

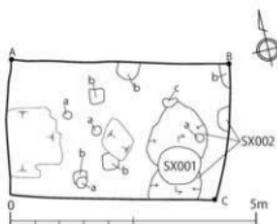
調査は、集合住宅建設に伴い敷地の駐車場等の予定箇所に4つの調査区を設定し試掘・確認調査を実施した。調査区1は、調査地の中央よりやや東側に東西約4.5m、南北約2.8mの調査区を設定した。調査区2は、調査地の中央よりやや南西側に東西約3.0m、南北約1.7mの調査区を設定し、調査区3・4はさらに南側に東西約1.7m、南北約3.0mの調査区を設定し調査を実施した。

調査の結果、調査区1では、現地表面（標高約7.3～7.5m）から深さ約0.2m（標高約7.1m）で、焼土と炭化物を多量に含んだ土坑（SX001）と焼土塊を全体に含んだ不定形遺構（SX002）や建物の柱穴と考えられる方形のピット群等を確認した。SX001は、長軸約0.9m、短軸約0.8m、深さ約0.2mを囲む土坑で、埋土には焼土と炭化物を多量に含んでいる。この遺構の南北両側や東側には、焼土塊を全体に含む遺構（SX002）が確認でき、SX001とSX002は関連した遺構と考えられる。また、北側の土層観察では貼床の可能性のある淡黄茶色シルト質土を確認しており、SX001・002との関連が想定できる。これら一連の遺構は、SX002の北側で、粘土を充てんしたピットが見られることや、SX001の出土遺物に砥石（第49図）があることなどから、何らかの工房遺構の可能性が指摘できる。また、同安楽系青磁皿の破片が出土しており、12～13世紀頃の遺構群と考えられる。

調査区2では、現地表面（標高約7.1m）から深さ約0.8m（標高約6.3m）まで新しい造成土で、その下位に江戸時代と考えられる東西方向の溝跡（SD003）と時期不明の柱穴を確認した。調査地西側の東西方向の現道は、このSD003の延長部分にあたることから、古い地割を踏襲している可能性が指摘できる。また、調査区3・4では、現地表面（標高約7.3m）から深さ約1.2m（標高約6.1m）まで新しい造成土であり、その下位に近代以前と考えられる水田層を確認した。このことからSD003より南側は、水田域であったと考えられる。



第45図 調査区配置図 (1/800)

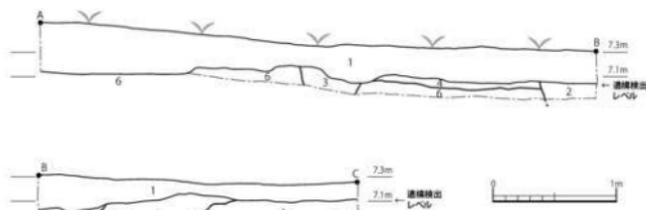


- a.黒灰褐色土(やや軟質)・新しい埋土
b.黒灰茶褐色土(しまりあり)・S
c.灰白茶色粘土

第46図 調査区1遺構配置図 (1/100)

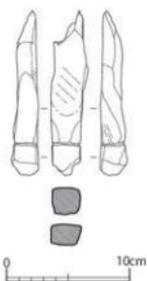


調査区1 遺構検出状況(南より)

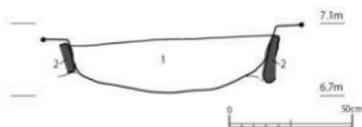


- 1.暗茶色土(埋め土)
2.黒灰茶褐色土(炭化物、褐色粒子を含む)
3.2層に同じ
4.淡黄褐色シルト質土(しまりあり)・粘床?
5.暗赤褐色土(粘土境を全体に含む)・SX002
6.明茶褐色土(シルト系)

第47図 調査区1北壁及び東壁土層断面図 (1/40)



第49図 SX001出土遺物 (1/4)



- 1.黒灰褐色土(灰褐色粘質土、黄褐色シルト質土を混上に含む
炭土粒、炭化物を多く含む)
2.境土境

第48図 調査区1 SX001土層断面図 (1/20)



調査区1 SX001土層観察時(西より)

3. まとめ

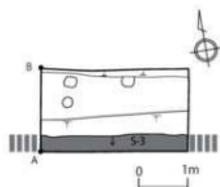
調査の結果、SD003より北側には安定面が確認でき、中世前半頃の遺構が展開していることが分かった。一方、南側は近代以前の水田域が展開していると考えられる。現在、調査地南西部は、松平忠直津守館跡として周知の埋蔵文化財包蔵地として取り扱っているが、周辺の調査状況や「御屋敷」の字名が、調査地北側一帯を指していることから(第52図)、松平忠直津守館跡の所在については、再検討が必要と考えられる。(中西)



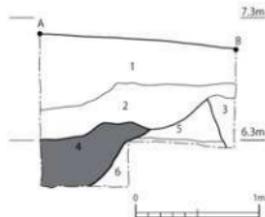
調査区2遺構検出状況（東より）



調査区2西壁土層観察時（東より）

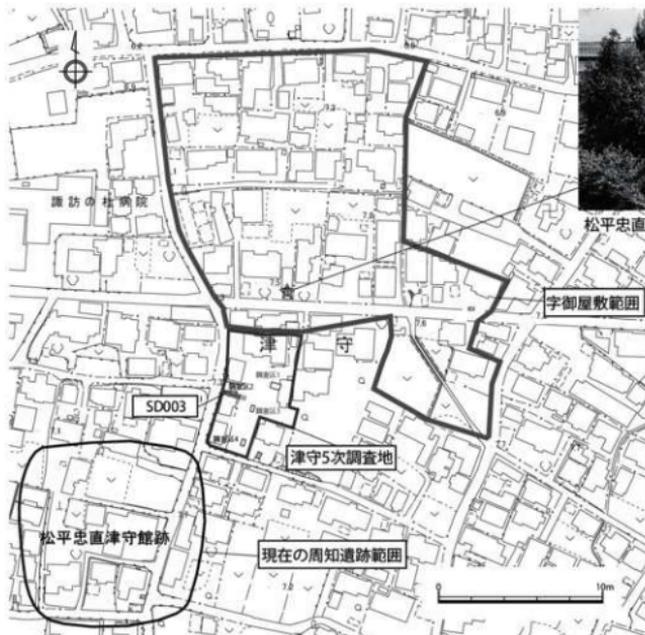


第50図 調査区2 遺構配置図 (1/100)



- 1 期茶色土（造成土）
- 2 暗青灰褐色粘質土と暗茶色土の混成層（造成土）
- 3 灰黒褐色粘質土と黄褐色シルト質土の混成層（境界付近造成土、掘壁埋め土）
- 4 淡灰褐色粘質土（敷貫、近世陶磁器等を含む）
- 5 褐色土（灰化物等含む）（包含層）
- 6 明茶褐色土（しまりあり、シルト系）安定面

第51図 調査区2 西側土層断面図 (1/40)



第52図 松平忠直館跡との周辺図 (1/3000)



松平忠直居館跡標柱・説明板設置箇所

字御屋敷範囲

津守5次調査地

現在の周知遺跡範囲

松平忠直津守館跡

SD003

8. 柞原八幡宮遺跡群 第2次調査

調査面積 78.3㎡ 調査期間 20.2.17～20.3.13 地域 A 調査担当 松浦

1. 遺跡の概要（第53図・第54図）

今回の調査地点は、柞原八幡宮の本殿両脇に建てられている東宝殿・西宝殿の基壇部分である。柞原八幡宮は大本市の西部、高崎山から南東に派生する尾根上に鎮座し、天長7（830）年の創建と伝えられる神社である。今回、江戸時代上棟されたとされる東宝殿・西宝殿の解体修理に伴いその基壇部分の調査を行う機会を得たことから、基壇の構築時期、構築方法を確認する目的で調査を実施した。なお、西宝殿では西宝殿正面桁の墨書から、宝暦7（1757）年に建築されたことが分かっており、「旧宮大工家文書」に「由原御脇殿再興」とあることから、東宝殿も西宝殿と同時期に建築されたと考えられる。

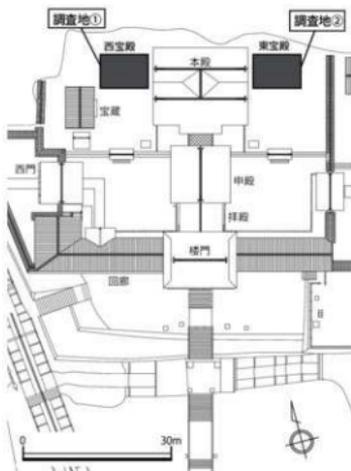


第53図 調査地点位置図 (1/5000)

2. 調査の概要（第55図・第56図）

調査では、西宝殿・東宝殿の基壇内部及びその周囲に各5ヶ所ずつ、計10ヶ所の調査区を設定した。

西宝殿の基壇及び東宝殿の基壇では、ともに現況の基壇下及びその周囲にのびる整地層が確認できており、基壇構築前に周囲を含めた整地を施しているものと考えられる。遺物は東宝殿側の調査区9で確認できた整地層（第56図の調査区9土層の9層）から18世紀前半に比定される国産磁器染付碗、いわゆるくらわんか手の碗の破片が出土している。西宝殿の基壇構築土は0.1m程度の厚さの整地層が5層にわたって形成されており、丁寧な版築状を呈していたが、東宝殿は、整地層が版築状ではなく、おおむね1・2回程度での整地であることや、中央から西に向かってやや斜めに堆積しているなど、やや粗い整地となっている。また、西宝殿では、現況の基壇上面から約0.2m下で整地層（第55図調査区5の12層）とは別の硬化面（第55図調査区5の6層）を確認しており、さらにその面から掘り込む柱の抜き取り穴（第55図調査区5の5層）を確認した。また東宝殿では、硬化面は確認できなかったものの、現況の基壇上面から約0.2m下を上端とする柱の腐食痕（第56図調査区10の4層）を確認できた。



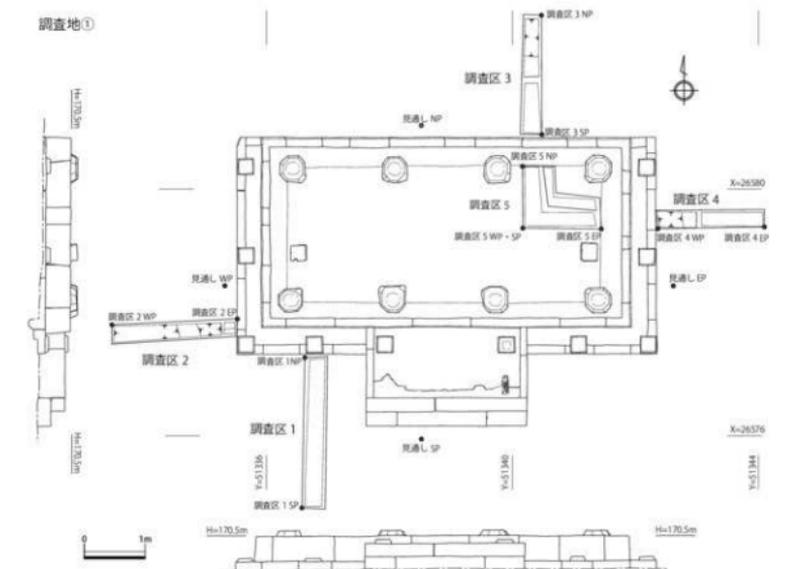
第54図 調査地点位置図拡大 (1/1000)



柞原八幡宮西宝殿



柞原八幡宮東宝殿



調査区 2



1. 黒褐色砂質土 玉砂り少量を含む 流土
2. カクラン 電気設備
3. 黒褐色砂質土 砂粒細かい しまりなし
4. 黒褐色砂質土 砂粒粗く しまりあり 玉砂り少量含む
5. 黒褐色砂質土 砂粒細かい しまりあり 整地層
6. 黒褐色砂質土 砂粒粗く しまりあり 小石混じり 地山
7. 黒褐色砂質土 砂粒粗く しまりあり 地山

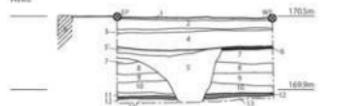
調査区 4



1. 黒褐色砂質土 玉砂りを含む 流土
2. 褐色砂質土 粘りあり しまりあり 硬化層
3. 黒褐色砂質土 砂粒細かい しまりなし
4. 黒褐色砂質土 砂粒粗く しまりあり 小石混じり
5. 黒褐色砂質土 砂粒粗く しまりなし
6. 黒褐色砂質土 砂粒粗く しまりなし
7. 褐色砂質土 砂粒細かい しまりあり 整地層
8. 黒褐色砂質土 砂粒細かい 茶褐色ブロック含む (g5.0cm)
9. 黒褐色砂質土 砂粒粗く しまりあり 地山
10. 黒褐色砂質土 砂粒粗く しまりあり 小石混じり 粘りあり
11. カクラン 電気設備

調査区 5

南側



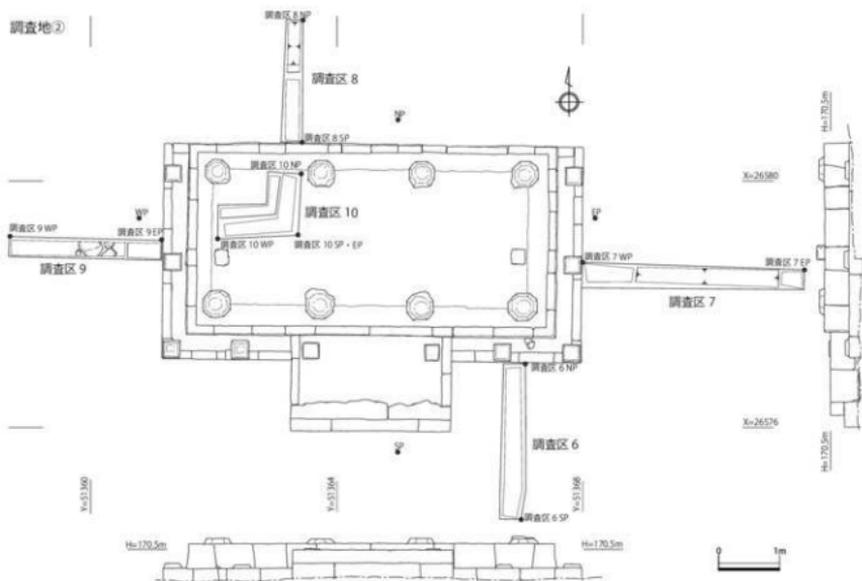
1. 褐色砂質土 粘りあり しまっている
2. 黒褐色砂質土 砂粒粗くしまっている 小石混じり
3. 灰白色砂質土 砂粒細かい しまりなし
4. 黒褐色砂質土 砂粒粗くしまっている 小石混じり
5. 黒褐色砂質土 砂粒細かい 褐色ブロックを含む
6. 褐色砂質土 粘りあり しまっている 硬化層
7. 黒褐色砂質土 砂粒粗くしまっている 小石混じり
8. 黒褐色砂質土 砂粒細かい 比較的しまっている
9. 灰色砂質土 砂粒細かい しまりなし
10. 黒褐色砂質土 砂粒粗く しまりなし 粘りあり
11. 灰色砂質土 粘りあり 砂粒粗く しまりなし
12. 褐色砂質土 砂粒粗く しまりあり 整地層
13. 黒褐色砂質土 砂粒粗く しまっている 小石混じり 地山

5. レキ層 数センチの小石をつめたか?



0 1m

第55図 西宝殿全体遺構図 (1/80)・調査区2,4,5土層断面図 (1/40)



調査区 6



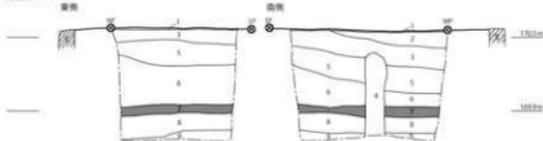
1. 灰褐色砂質土 しまり強いが硬化している 表土
2. 灰褐色砂質土 粘りあり しまっている 小石混じり
3. 黄褐色砂質土 しまっている 砂粒細かい
4. 灰黄褐色砂質土 粘質土 しまっている
5. 赤褐色砂質土 粘りあり 小石混じり 粘りあり
6. 灰赤褐色砂質土 しまりあり 小石 (レキ) 混じり 砂粒細かい
7. 灰赤褐色砂質土 粘りあり 砂粒細かい 小石混じり
8. 灰赤褐色砂質土 粘りあり 砂粒細かい 小石混じり
9. 黄褐色砂質土 花崗岩を含む (地山) 基礎層か

調査区 9



1. 灰褐色砂質土 基砂利を含む 粘りある砂質土
2. 赤褐色砂質土 しまりあり 硬化面に近い
3. カクラン (電気設備)
4. 灰褐色砂質土 粘りの強い砂質土 砂利を含む 粘り砂 粘りの強い砂質土か?
5. 赤褐色砂質土 しまり強い 小石混じり 石を据えるための層り込み
6. 黄褐色砂質土 凝灰岩 小石混じり しまり強い 7層・9層を据り込む
7. 灰褐色砂質土 しまりが強い 硬化面に近い 粘りあり 本館基壇下の層物
8. 赤褐色砂質土 しまりが強い 硬化面に近い 粘りあり 石を据えるための層り込みか
9. 灰黄褐色砂質土 小石が少量混じる しまっているがまがめが強い 本館基壇下の整地

調査区 10



1. 灰白色砂質土 硬化面 しまりあり 小石混じり
2. 赤褐色砂質土 小石混じり しまりあり
3. 褐色砂質土 小石混じり しまりあり
4. 基礎形成時の相違か 最初から空掘 比較約しまっている
5. 灰褐色砂質土 小石 粘りが弱混じり
6. 黄褐色砂質土 小石 粘りが弱混じり
7. 灰褐色砂質土 整地層 しまっている 小石混じり
8. 赤褐色砂質土 しまりのない切替土 本館の配筋が出る
9. 黄褐色砂質土 花崗岩を含む (地山) 基礎層か

第56図 東本殿側全体構造図 (1/80)・調査区6,9,10土層断面図 (1/40)



第57図 出土遺物 (1/4)

3. 出土遺物 (第57図)

1は調査区9の整地層である9層から出土した肥前磁器の染付碗で、いわゆるくわんか手である。2は東宝殿の基壇下である調査区10の8層から出土した青銅製の煙管の吸口である。

4. まとめ

今回の調査の結果、西宝殿、東宝殿ともに、基壇構築前に整地を行った後、基壇を構築していたことが判明した。整地層からの出土遺物は18世紀前半に比定されるものであり、宝暦7(1757)年とされる西宝殿、東宝殿の墨書による建築時期とは矛盾しない。また、基壇内では整地層とは別の硬化面や、柱の抜き取り痕及び柱の腐食痕が確認できた。これらについては、現況基壇の構築に関わるものである可能性と、現況基壇以前に元となる別の基壇が形成されていた可能性がある。後者であれば、基壇下の整地層がくわんか手の碗の時期である18世紀前半以降であることや、現況の東宝殿・西宝殿の建築が宝暦7(1757)年とされていることなどから、18世紀前半から宝暦7(1757)年の間で基壇の構築が行われたのち、宝暦7(1757)年に現況の基壇に改築されたものと考えられる。現状では資料が少なく、判断できないが、今後は文献史料の検討なども行っていく必要がある。(松浦・山本)



西宝殿基礎 (南東より)



東宝殿基礎 (南西より)



西宝殿基壇 (調査区5) 南壁土層 (北より)



東宝殿基壇 (調査区10) 南壁土層 (北より)

9. 北の崎遺跡 第3次調査

調査面積 50.0㎡ 調査期間 20.2.18～20.2.21 地域 A 調査担当 中西

1. 遺跡の概要 (第58図)

北の崎遺跡は、標高40m前後の鶴崎台地に展開する猪野遺跡、葛城遺跡の北側、米竹遺跡の南側に位置した南北約400m、東西約150mから250mの範囲で独立した平坦部をもつ遺跡である。遺跡の北東部の大半は、平成元年の宅地造成工事により遺跡が消滅している。この宅地造成工事に伴い発掘調査(第1次調査)が実施され、弥生時代後期から古墳時代初めの集落跡や中世の溝跡などが確認されている。その後、本格的な発掘調査は実施されていなかったが、昨年度、遺跡の中央西側に小規模な宅地造成に伴い発掘調査(第2次調査)を実施し、詳細な時期は不明であるが、中世の方形館と考えられる遺構群が確認されている。また近年、遺跡内においては大規模な開発計画がなされている状況であり、こうした中、遺跡の南側においても集合住宅建設の計画がなされた。試掘・確認調査を実施した結果、現地表面から約0.2m掘り下げた耕作土の直下(標高約39.2m)から遺構が確認され、遺構保存が図れない浄化槽部分について記録保存のための発掘調査を実施することとなった。



第58図 調査地点位置図 (1/6000)

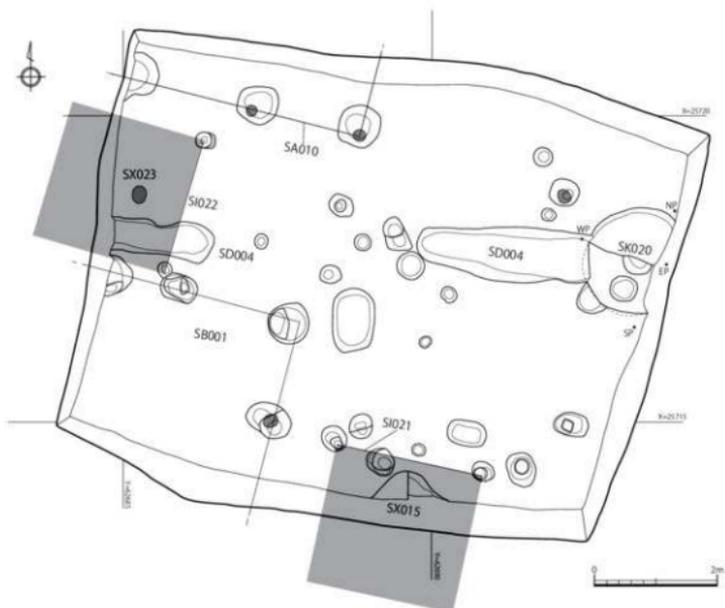
2. 調査の概要 (第59図～第63図)

調査は浄化槽設置箇所に南北約7m、東西約9.6mの調査区を設定し実施した。調査の結果、耕作土の下位に黄褐色粘質土層の安定地盤を確認し、中世の溝状遺構 (SD004) や古代の掘立柱建物跡と考えられる柱穴列 (SB001・SA010)、弥生時代中期の貯蔵穴と考えられる土坑 (SK020) を確認した。また、地床を伴う竪穴建物跡 (S1021・S1022) の可能性が考えられる遺構群を確認した。

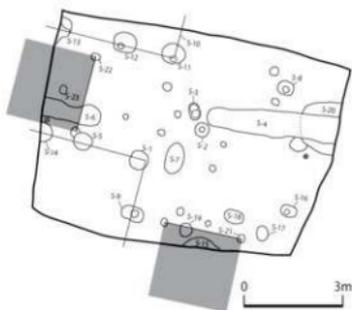
SB001 現状で柱穴3基 (S-1・5・9) を確認しており、調査区の南側と西側への展開が想定される建物跡である。1間の長さは約1.7m～1.8mであり、主軸の方位はN-14° 8' -Eである。柱穴は直径約0.5～0.6m、平面形状は楕円形である。深さは約0.4mとほぼ均一で、いずれも橙褐色粘質土の地山ブロックを全体に含む埋土である。S-9で柱痕を確認したが浅いものであった。また、調査区西側で一部確認している柱穴 (S-14) については、柱間が約1.2mと短く別遺構の可能性もあるが、同一軸線上に並んでいることから関連するものとして報告する。S-1から須恵器環の口縁部片、S-9から土師器裏の口縁部片が出土しており、8世紀後半から9世紀頃の時期が考えられる。

SA010 東西方向に3基 (S-11・12・13) の柱穴列を確認しており、調査区の北側と西側への展開が想定されるが、現状では柱穴列として報告する。1間の長さは約1.8mであり、主軸の方位はN-13° 30' -Eである。柱穴は直径約0.6～0.7m、平面形状は円形である。深さは約0.3mと浅いが、S-11・12で直径約0.15mの柱痕を確認した。時期を特定できる出土遺物は確認できなかったが、主軸の方位がSB001と近く、同一時期の可能性が高いと考えられる。

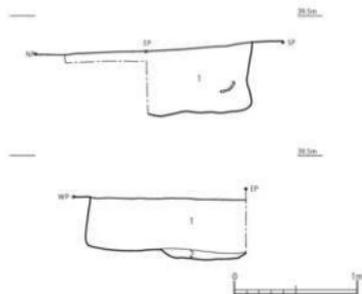
S1021・022 地床が想定できる焼土範囲 (SX015・SX023) を中心にそれぞれ対になると考えられる柱穴が確認でき、建物の壁はすでに削平されているものの竪穴建物跡の可能性が考えられる。S1021は調査区南側で確認し、南側の調査区外に展開するものと考えられる。約1.0mの焼土範囲 (SX015) が確認でき、これを中心としてその北側に2基の柱穴が東西に展開する。柱間の長さは約2.4mで、主軸の方位はN-11° 36' -Eである。柱穴は直径約0.4m、平面形状は円形であり、深さは約0.5mとほぼ均一である。SB001と主軸の方位がほぼ同じであることから、関連した遺構の可能性もあるが柱穴の形状・規模が異なることから別遺構と考える。出土遺物がなく時期は不明であるが、後述のS1022に近い時期が想定される。



第59図 全体遺構図 (1/80)



第60図 遺構配置図 (1/150)



1. 暗黒茶褐色土、暗褐色土紀質土ブロックを全体に含む、やや楕円状を呈する
2. 明茶褐色土、やや軟弱、炭化物を多く含む、センタービッド

第61図 SK020土層断面図 (1/40)

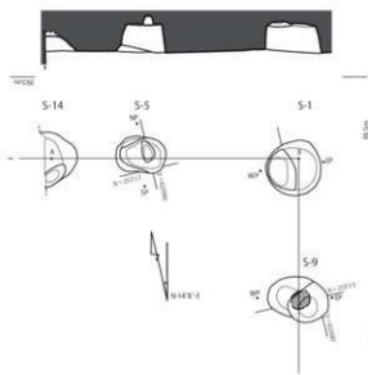


調査区全景 (東より)



SK020掘り下げ状況 (南より)

SB001



S-5



1. 黒黒褐色土 (炭化物・褐色粘土・黄灰色砂粒を全体に含む)
 2. 黒黒褐色土 (褐色粘質土ブロックを多く含む)
- ※ 下部に柱の穴が1と見えられるものあり

SB001 (S-1)



SB001 (S-9)



S-1



1. 黒黒褐色土 (炭化物・褐色粘土・黄灰色砂粒を全体に含む)
2. 黒黒褐色土 (褐色粘質土ブロックを現状に含む (黒土塊を含む))
3. 黒黒褐色土 (炭化物粒・褐色粘土を少量含む)

S-9



1. 黒黒褐色土 (黄灰色砂ブロックを含む)
2. 黒黒褐色土 (大きな褐色粘質土ブロックを複数含む)

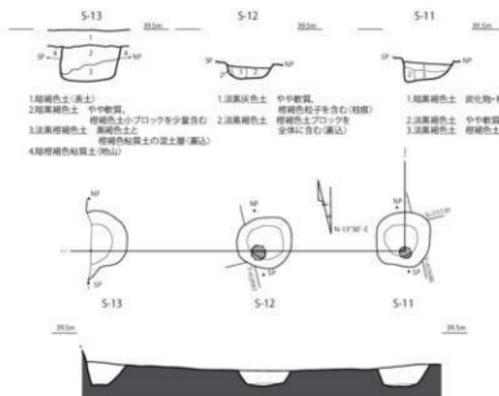
SI0215-22)



0 5cm

第63図 出土遺物 (1/4)

SA010



1. 黒褐色土 (表土)
2. 黒黒褐色土 やや軟質、褐色粘土・小ブロックを少量含む
3. 黒黒褐色土 黒褐色土と褐色粘質土の混土層 (裏込)
4. 黒褐色粘質土 (内)

1. 黒黒褐色土 やや軟質、褐色粘土を含む (柱脚)
2. 黒黒褐色土 褐色粘質土ブロックを全体に含む (裏込)

1. 黒黒褐色土 炭化物・褐色粘土・小ブロックを全体に含む (厚層埋め土)
2. 黒黒褐色土 やや軟質、褐色粘土を含む (柱脚)
3. 黒黒褐色土 褐色粘土・小ブロックを現状に含む (裏込)



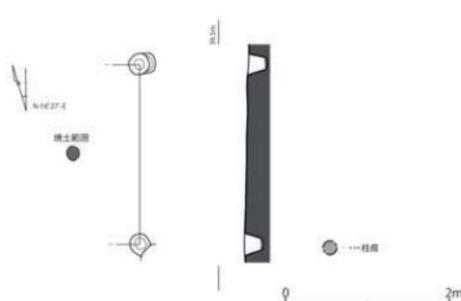
SA010 (S-12) 土層観察時 (東より)

SI021



1. 黒赤褐色土 (大きい黒土ブロックを全体に含む)

SI022



第62図 建物遺構図・土層断面図 (1/60)

SI022は調査区西側で確認し、西側の調査区外に展開するものと考えられる。焼土範囲(SX023)は直径約0.15mと小さいが、これを中心としてその東側に2基の柱穴が南北に展開する。柱間の長さは約2.2mで、主軸の方位はN-16°27'-Eである。柱穴は平面形状が円形で直径約0.25m、深さは約0.25mであり、SI021に比べるとやや規模が小さめである。南側の柱穴がSB001の柱穴と新旧関係(SI022→SB001)をもっており、また、北側の柱穴(S-22)からは、土師器裏の口縁部片が出土しており、6世紀頃の時期が考えられる。

SK020 調査区東側で確認し、一部調査区外にのびるが、直径約1.8m、深さ約0.8mを測る円形を呈すると考えられる土坑である。断面形状がやや袋状を呈することや底面のほぼ中央にセンターピットと考えられる窪みがあることなどから、貯蔵穴と考えられる。土坑は橙褐色粘質土の地山ブロックを全体に含む暗黒茶褐色土で一度に埋め戻されている。時期はその埋土から弥生土器直口壺の胴部片が出土しており、弥生時代中期と考えられる。

SD004 東西方向の溝状遺構(S-4・S-6)で、溝の幅は約0.9m、深さ約0.1mと浅く一部途切れているが同一の堆積土であることから一連のものと考えられる。土師器片が出土しており、中世の時期が想定される。

3. まとめ

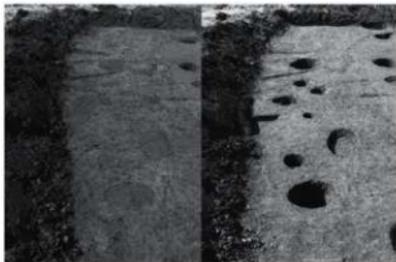
今回の調査で確認した主要な遺構は、弥生時代中期の貯蔵穴(SK020)、古墳時代後期の竪穴建物跡と考えられる遺構(SI021・O22)、古代の掘立柱建物跡と考えられる柱穴列(SB001・SA010)、中世と考えられる溝状遺構(SD004)である。当該遺跡のこれまでの調査では、弥生時代後期から古墳時代初め頃の集落が確認されており、当調査地まで集落が広がっている可能性、あるいは弥生時代中期の集落が展開している可能性が確認できた。また、古墳時代後期の竪穴建物跡と考えられる遺構や古代・中世の遺構が確認できたことは、当該遺跡に各時代を通して遺跡が展開していた可能性を示唆している。さらに、古代の建物跡と考えられる遺構群の確認は、昨年度の米竹遺跡第14次調査の所見とあわせて、鶴崎台地、あるいは市内における古代の集落の展開を考える上で大きな成果と言える。(中西)



SA010 検出状況(東より)



SA010・SB001完掘状況(北より)



SI021検出・掘り下げ状況(東より)



SI022ほか掘り下げ状況(西より)

10. 各調査区遺構出土遺物一覧表

遺構名	方格	1層中	遺構番号	種別	土色	出土遺物	備考	時期	
中世大塚内内堀	138	4	S004	土坑	-	土師器ⅢC、土師器ⅡB、須賀器Ⅱ片、土師器土器鉢片、埴輪陶水注片、平瓦、丸瓦、龍泉系青磁片、善徳園系青花皿・青花皿、赤磁皿、赤磁碗、漆器系青花皿、皿、磁土土器片、中世産短輪陶器Ⅱ片、中世産短輪陶器Ⅲ片、須賀器Ⅱ片、壺、小皿片、磁土、磁石、鉄釘、不明鉄物	-	16c後半	
		5	SF005	溝状遺構	-	土師器ⅡB、弥生土器Ⅱ片(厚底)、備前焼平鉢、玉砂利(緑)	-	16c	
		7	SK007	農具土坑	2層	-	土師器ⅢC、土師器ⅡB、平瓦、龍泉系青磁皿、白磁皿、善徳園系青花皿、皿、中世産短輪陶器Ⅱ片、備前焼、常滑焼、磁土系片、玉砂利(白、緑)	-	16c後半
						-	土師器ⅢC、土師器ⅡB、大内系土師器Ⅱ片、弥生土器Ⅱ片(厚底)、瓦片、備前焼、玉砂利(白・青)、不明鉄物	-	-
		9	S009	カクラン	-	瓦片、龍泉系青磁皿、善徳園系青花皿・皿片、備前焼片、石罫片、磁土系片、鉄釘	-	-	
		11	SK011	火穴竪土坑	-	土師器ⅢC・ⅢB、土師器ⅡB・ⅡC・ⅡD、須賀器Ⅱ片、須賀器Ⅱ片、土師器土器鉢、弥生土器Ⅱ片・壺、丸瓦片、平瓦片、龍泉系青磁皿、善徳園系青花皿、皿、漆器系青花皿、皿、中世産短輪陶器Ⅱ片、不明鉄物・小皿片、備前焼片、壺、玉砂利(白・青)、磁石、鉄釘、銅釘(火の付)	-	16c後半~17c	
		12	SK012	土坑	-	土師器ⅡB、土師器Ⅱa、焼土片	-	16c	
		13	SK013	土坑	-	土師器ⅢC・小皿C、土師器Ⅱ片(底部欠)、瓦片、白磁小片、唐津焼(黒入カ)、焼土片	-	16c後半	
		14	SK014	土坑	-	土師器ⅡB、平瓦、丸瓦、龍泉系青磁皿、善徳園系青磁皿、漆州系青花皿、中世産短輪陶器Ⅱ片、備前焼、磁土	-	16c	
		15	S015	トレンチ1	1層	-	土師器ⅢC、土師器ⅢB、土師器ⅡA、軒丸瓦片、丸瓦、平瓦、壺、龍泉系青磁皿、白磁小片、善徳園系青花皿、青花皿、漆州系青花皿、華地三石片、須賀器Ⅱ片、備前焼片、大型土製品(大型)、磁土、玉砂利(白・赤)、石臼片	-	-
					2層	-	土師器ⅢC、土師器ⅡB、土師器土器鉢鉢(赤系系)、善徳園系青花片、不明鉄物・小皿片、備前焼、磁土、玉砂利(赤)、不明鉄物	-	-
		16	SK016	竪土層	-	土師器ⅡA・B断面、土師器ⅢC・ⅢB・ⅢD、土師器ⅡC・ⅡD、土師器Ⅱ片、土師器土器火鉢、瓦質土器角鉢、防空系青磁皿、白磁小片、善徳園系青花皿、華地三石土器片、中世産短輪陶器Ⅱ片、須賀器Ⅱ片、備前焼片、壺、玉砂利(白)、天草磁石、鉄釘、不明鉄物、不明鉄物	-	16c後半~17c	
		17	S017	ピット	-	土師器ⅡB、土師器Ⅱa、土師器Ⅱa、玉砂利(緑・黄)	-	-	
		18	S018	ピット	-	土師器Ⅱ片(赤切)、丸瓦片、備前焼	-	-	
19	S019	ピット	-	土師器ⅡB、鉄釘	-	-			
20	SK020	農具土坑	-	土師器ⅢC・小皿C、土師器ⅡB、須賀器Ⅱ片・須賀器Ⅱ片・Ⅱ片、土師器土器鉢、瓦質土器角鉢・鉢、弥生土器Ⅱ片、丸瓦、平瓦、壺、龍泉系青磁皿、白磁片、青白磁片、善徳園系青花皿・皿・皿、漆州系青花皿・皿、中世産短輪陶器Ⅱ片、須賀器Ⅱ片・Ⅱ片、タイ原陶器、備前焼、磁土・鉄土、鉄釘、不明鉄物、不明鉄物、不明鉄物	-	16c後半			
30	S030	サブトレンチ	-	大内系土師器Ⅱ片、土師器ⅡB、平瓦、龍泉系青磁皿、善徳園系青花皿、玉砂利(白)	-	16c前半以降			
35	SA035	礎石列	-	-	-	-			
トレンチ2	トレンチ2	トレンチ2	1層	-	壺、平瓦片、龍泉系青磁皿、善徳園系青花皿・皿、漆州系青花皿、中世産短輪陶器Ⅱ片、備前焼、玉砂利(白)、鉄釘	-	-		
			2層	-	土師器ⅢC、土師器ⅢB、弥生土器Ⅱ片、龍泉系青磁皿、白磁皿、ペトナム系陶器Ⅱ片、須賀アツアツ陶器Ⅱ片	-	-		
			3層	-	土師器ⅢC、土師器ⅡB、大内系土師器Ⅱ片、弥生土器Ⅱ片、龍泉系青磁皿、白磁皿	-	-		
			4層	-	土師器ⅢC、善徳園系青花皿片、板状鉄製品	-	-		
表土	-	-	-	-	-	-			
表土	142R表土	-	-	-	-	-			
中世大塚内内堀	142-145	1	142R1E-S-1	溝状遺構	-	土師器ⅡB、土師器ⅡA、須賀器Ⅱ片、土師器Ⅱ片、弥生土器Ⅱ片、常滑片、磁土片、玉砂利(青)、磁石	-	15世紀後半~16世紀前半	
		1	142R2E-S-1	溝状遺構	-	土師器Ⅱ片、土師器土器鉢、瓦質土器遺鉢、平瓦片	-	-	
		1	145-13E-S-1	土坑	サブトレ	土師器ⅢC	-	16世紀後半	
		5	145-23E-S0005 上層	-	-	土師器ⅡB、須賀器Ⅱ片・壺、土師器土器鉢、瓦質土器鉢、白磁皿	-	-	
		5	145-23E-S0005 中層	溝状遺構	-	土師器Ⅱ片	-	15世紀後半~16世紀前半	
		5	145-23E-S0005 下層	-	-	土師器Ⅱ片	-	-	
		10	145-23E-SA010b	溝状遺構	-	土師器Ⅱ片、白磁皿	-	-	

第8表 各調査区出土遺構一覧表①

遺跡名	次数	S番号	遺構番号	種別	土色	出土遺物	備考	時期		
上野遺跡群	24		1	SP001	ピット	柱脚：暗灰色土 柱内面方：暗灰色土	-	-	中世以降か	
			2	SP002	ピット	暗灰色土	-	-	-	-
			3	SP003	ピット	暗灰色土	-	-	-	-
			4	SP004	ピット	暗灰色土	-	-	-	-
			5	ST005	火葬墓	壁土：暗灰色土	遺物群：磁器部（伊部：灰褐色粘質土、骨片、炭化物、灰等）	-	-	8世紀中頃
			6	SK006	ピット	暗灰色土	-	-	-	-
			7	SK007	ピット	暗灰色土	-	-	-	-
			8	SK008	ピット	暗灰色土	-	-	-	-
			9	SK009	ピット	暗灰色土	-	-	-	-
			10	ST010	土塚墓	壁土：暗灰色粘質土	金属製：刀子、釘	-	-	中世か
			11	SA011	柱穴列	暗灰色土	-	-	SP002,003,004,006	-
			12	SA012	柱穴列	暗灰色土	-	-	SP007,008,009	-
			13	SK015	土坑	壁土：1. 暗灰色土 壁土：2. 灰褐色土	-	-	-	-
吉田内遺跡群	24			SK001	土坑	-	青磁片	-	-	
				サブトレ	土坑	-	白色研焼土器類、白磁類	-	-	
				24-2次	-	-	土器類片、遺物類片	-	-	
津守遺跡	4		5	SO005	溝跡	精治跡 粘灰土	土器類：FA・小皿A 土器類：FA・小皿A（形状が多い）・燗台	溝の壁が透けているが、SO010と同一遺構であると考えられる。	15世紀中頃～後半	
			10	SO010	溝跡	精治跡 粘灰土	土器類：FA・小皿A 土器類：FA・小皿A（形状が多い）	溝の壁が透けられるが、SO005と同一遺構であると考えられる。	15世紀中頃～後半	
			15	SO015	溝跡	精治跡	土器類：FA・小皿A	-	-	-
						5層：暗灰色土	土器類：FA・小皿A・燗台			
						9層：暗灰色土	土器類：FA・小皿A 白磁・磁石類 青白磁・小片	-	-	15世紀中頃～後半
			10層：灰色砂（西院側のみ）	土器類：FA・小皿A 遺物類	-	-	-			
			精治跡	-	暗灰色粘質土	土器類：FA・小皿A	-	-		
津守遺跡	5		1	SK001	不明遺構	-	宮内省青磁皿、土器類片	同一遺構の可能性高い	12～13世紀	
			2	SK002	不明遺構	-	焼土塊	同一遺構の可能性高い	-	
			3	SK003	溝状遺構	-	祭祀土器片類	区画溝の可能性あり	近世	
内原八幡宮遺跡群	2			調査区9	-	9層	漆器類・磁器類・灰土類	-	18世紀前半	
				調査区10	-	8層	青磁片・滑石管	-	-	
北の嶋遺跡	3		1	SB001	竪立柱建物跡	-	土器類片	-	古代	
			2	-	ピット	-	-	-	-	
			3	-	ピット	-	土器片	-	-	
			4	SO004	溝状遺構	-	土器類片（赤切り）、白色灰土器類片、土器類片	5-4と同一遺構	中世	
			5	SB001	竪立柱建物跡	-	土器類片、土器類土器片、遺物類片、遺物類土器類片、土器片	-	古代	
			6	SO004	溝状遺構	-	土器類片	5-4と同一遺構	中世	
			7	-	跡み	-	-	-	-	
			8	-	柱穴	-	土器片	-	柱倉あり	-
			9	SB001	竪立柱建物跡	-	土器類開口縁部片、土器類片	-	柱倉あり	古代
			10	SA010	柱穴列	-	土器類片	-	竪立柱建物跡の可能性あり	古代
			11	SA010	柱穴列	-	土器類片	-	柱倉あり	-
			12	SA010	柱穴列	-	土器類片	-	柱倉あり	古代
			13	SA010	柱穴列	-	土器類片	-	-	古代
			14	SB001	竪立柱建物跡	-	-	-	-	-
			15	SK015 SK021	焼土器類 竪立建物跡	-	焼土塊	-	-	-
			16	-	ピット	-	-	-	方形の柱倉あり	-
			17	-	ピット	-	土器片	-	5-19と対の可能性あり	-
			18	-	ピット	-	-	-	-	-
			19	-	ピット	-	黒曜石剥片（鹿島産）	-	5-17と対の可能性あり	-
			20	SK020	土坑 （赤磁石）	-	弥生土器類土器類片、弥生土器片、黒曜石剥片（鹿島産）	-	磁石、センターピットあり	弥生時代中頃
			21	SK021	竪立建物跡	-	土器片	-	対となる柱穴あり	-
			22	SK022	竪立建物跡	-	土器類片	-	対となる柱穴あり	6世紀
			23	SK022	焼土器類 竪立建物跡	-	-	-	-	6世紀

第9表 各調査区遺構出土遺物一覧表②

第3章 大分市埋蔵文化財調査概要報告平成30年度調査版 補遺

1. 掲載の経緯

令和2年3月31日刊行した『大分市埋蔵文化財調査概要報告 平成30年度調査版』では、18件の調査概要・調査報告を掲載したが、紙面の都合により出土遺物の詳細報告を見送った。本章では、これら18件のうち、とくに報告が必要と判断した6件の調査における出土遺物について、実測図を含めた詳細報告を行い、本章において「補遺」として掲載するものである。

2. 詳細報告

中世大友府内町跡第139次調査出土遺物（第64図1・2）

調査地点は、旧万寿寺跡の南西隅部付近にあたる。

1は旧万寿寺の堀と推定される遺構であるS-1から出土した、土師器皿である。概要報告平成30年度版第21図における調査区1及び調査区2の第5層がS-1の遺構埋土であるが、1は調査区1の第5層から出土したものである。2は調査区1の第2層耕作土中から出土した埴瓦である。

中世大友府内町跡第140次調査出土遺物（第64図3）

調査地点は、推定御蔵場跡の北東、大友氏館跡の南東である。

3はSD001から出土した土師器皿C（京都系土師器皿）である。SD001は大友氏館跡の庭園遺構への給水に関わると考えられている溝、館28SD010の延長にあると推定された。

古国府遺跡群第22次調査出土遺物（第64図4～14）

SK003は、遺構の掘り下げを行っていないが、遺構表面では縄文時代後期に比定される土器のみが検出されており、当該期の可能性が高いと考えられる。

4～11は磨消縄文による文様帯を有する深鉢である。4は頂部を欠くが明らかに波状となる深鉢口縁部で、5・6も同様の形状となる口縁部とみられる。口縁部は沈線と縄文による文様帯となる。7～11は、4～6に対応する深鉢胴部であり、ヘラ描き沈線と沈線間に施文された縄文による文様帯が形成されている。この文様帯中にヘラ描きでU字状の文様を施すもの（7）や同様の文様を3つ入り組み状とするもの（9）もみられる。13は無文の深鉢で、4～11の有文深鉢とセットになるものと考えられる。12は上げ底の底部片であり、上記の有文・無文深鉢とセット関係となる土器の底部と推定される。これらの土器は、縄文後期中葉の西平式～太郎迫式の範疇に収まるものと考えられる。

14は表土から出土した土師器裏の口縁部である。

古国府遺跡群第23次調査出土遺物（第64図15～21）

本調査では、貼床を有する方形竪穴建物跡SI005及びこれの埋土上に掘られた土坑（S-1）などが検出された。

22はSI005の床面直上に埋置されていたほぼ完形の土師器甕である。その他、SI005から出土した土師器類（18～20）に加え、S-1出土遺物（15～17）も含めて、SI005の帰属時期を示す遺物と考えられ、5世紀後半に位置付けることが妥当であろう。

上野遺跡群第23次調査出土遺物（第64図23・24）

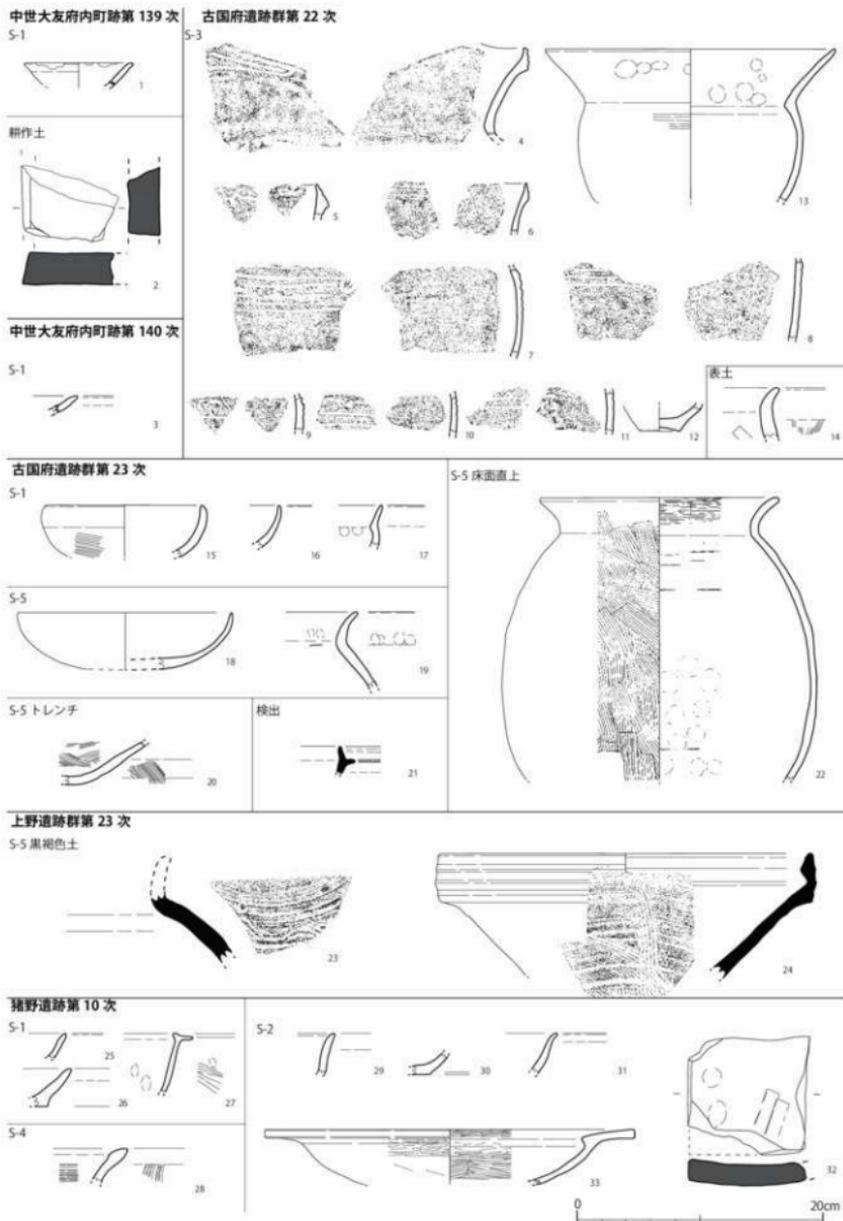
本調査地点は、上野竜王畑遺跡の南西側隣接地点にあたる。調査区の中ほど以南に地形的な落ち（S-5）が認められ、サブトレンチで確認した下層埋土は中世以降の堆積と推定されている。

23・24はS-5下層埋土から出土した備前焼で、16世紀後半～末頃に位置付けられる。

猪野遺跡第10次調査出土遺物（第64図25～32）

調査地点は溝で区画された中世居館の可能性が指摘されている。東西方向の溝SD001は南北方向の溝SD002と一連の遺構で、方形区画の南西隅部にあると推定されている。SD004はSD002の外側にあたる南北方向の溝である。

25～27はSD001出土遺物で、このうち27は瓦質土器鍋B類である。また29～32はSD002出土で、このうち31は無文の青磁碗D類である。出土遺物より、SD001、SD002は15世紀代に位置付けられる。SD004は土師質土器鍋C類が出土している（28）ことから、16世紀後半以降に位置付けられる。（高嵩・山本）



第64図 大分市埋蔵文化財調査概要報告 平成30年度調査版 掲載遺物 補遺 (1/4)

調査名	遺構番号	種別	形状	法量 (cm) () は復元数値					色調・質感	出土	調査・検出		備考	分期時期	調査番号	種号	掲載ページ
				口径/最大径	幅/最大径	高さ/最大径	高さ (厚)	内面			外面						
中世大友内内院跡 第139次調査	5-1	土師器	小皿AII	法刀	-	-	-	-	淡褐色	土製の筒状、赤色 粘土を含む	ナデ	ナデ	円筒として使用か		第640-1	001	16～17
		制作土	横瓦	横瓦	-	-	-	-	上: 暗褐色、 下: 灰褐色	カクセン石	ナデ				第640-2	002	
中世大友内内院跡 第140次調査	5-1	土師器	皿	-	-	-	-	淡褐色	赤色粘土を含む	ナデ	指押さえ兼ナデ	口縁部		第640-3	003	18～19	
古国内遺跡群 第23次	5-3	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	外: 明褐色、 内: 灰褐色	曹母、カクセン石、 長石を含む	ミガキ	口縁部+縄文	西方式	縄文時代 後期中葉	第640-4	002	21～22	
		縄文土器	深鉢	-	-	-	-	明褐色	カクセン石をわずかに 含む	強いナデ?	へうぼろ織+縄文	西方式、流紋口縁の基部	縄文時代 後期中葉	第640-5	003		
		縄文土器	深鉢	-	-	-	-	暗茶褐色	長石が少量含まれる	ナデ	口縁部部 流紋+縄文	西方式	縄文時代 後期中葉	第640-6	004		
		縄文土器	深鉢	-	-	-	-	淡茶褐色	曹母、カクセン石、 黒色粘土を含む	ナデ	へうぼろ織+縄文	西方式	縄文時代 後期中葉	第640-7	005		
		縄文土器	深鉢	-	-	-	-	外: 黄褐色、 内: 茶褐色	曹母、カクセン石、 黒色粘土を含む	ナデ	流紋、ミガキ		縄文時代 後期中葉	第640-8	011		
		縄文土器	深鉢	-	-	-	-	暗茶褐色	曹母とカクセン石を わずかに含む	ナデ	へうぼろ織+縄文	西方式	縄文時代 後期中葉	第640-9	006		
		縄文土器	深鉢	-	-	-	-	外: 暗褐色土、 内: 暗褐色	カクセン石	ナデ?	へうぼろ織+縄文	西方式	縄文時代 後期中葉	第640-10	007		
		縄文土器	深鉢	-	-	-	-	暗褐色	カクセン石を含む	ナデ	へうぼろ織+縄文	西方式	縄文時代 後期中葉	第640-11	008		
		縄文土器	深鉢	-	-	3.2	-	外: 淡褐色、 内: 暗褐色	曹母、長石を若干 含む	ナデ	ナデ	流紋上げ産	縄文時代 後期中葉	第640-12	009		
		縄文土器	深鉢	23.6	-	-	-	外: 暗茶褐色、 内: 明褐色	曹母を含む	指押さえ、ナデ	ナデ	無紋深鉢	縄文時代 後期中葉	第640-13	011		
		後土	土師器	甕	-	-	-	-	淡褐色	曹母、カクセン石、 赤色粘土を含む	クズリ、ナデ	ハケ目、ナデ		土師時代 前期後半	第640-14		001
		古国内遺跡群 第23次	5-1	土師器	瓶	(12.7)	4.2+a	-	-	赤褐色	曹母、カクセン石	ナデ	ナデ、ハケ目				第640-15
土師器	瓶			-	3.5+a	-	-	暗茶褐色	カクセン石、曹母 を含む			外周無紋?		第640-16	002		
5-5	土師器		小型 丸底甕	-	3.4+a	-	-	淡褐色	カクセン石、曹母 を含む	指押さえ		がたい、小型	5c(5)h	第640-17	003		
	土師器		瓶	(17.4)	4.6	-	-	-	カクセン石、曹母			縦周れ美しい	5c後半	第640-18	001		
5-5 トレンチ	甕		-	6.1+a	-	-	-	淡赤褐色	曹母、カクセン石	ナデ、横ナデ、 黒色横	横ナデ、ミガキ風 の丁寧なナデ		5c前半 5c後半	第640-19	002		
	土師器		高坪	-	-	-	-	赤褐色	曹母、カクセン石、 長石					第640-20	001		
検出	流石罎		杯身	-	2.1+a	-	-	青灰色	緑腹	ナデ	磨かれている	型式TK47～TK09	5c～6c	第640-21	001		
5-5 埋蔵遺上	土師器		甕	(19.4)	23.0+ a	-	-	外: 暗色、 内: 暗褐色	長石多量、カクセン 石中量、緑石少 量、石炭、赤色粘 土を少量含む	口: 磨いたナデ子 皿: クズリナデ子、 磁文文	ハケナナデ	外周胴部中心に一部黒 あり		第640-22	001		
	土師器		筒形器	-	-	-	-	外: 明褐色 内: 暗茶褐色	白色、黄色粘土を 含む	ナデ	ナデ、流紋	筒形器、胴部に3本の波 状文		第640-23	001		
上野遺跡群 第23次	5-5 黒褐色土		土師器	筒形器	(30.0)	10+a	-	-	赤茶褐色	黄色粘土をわずかに 含む	ナデ	ナデ (口縁部の 粒磨き)	筒形器、5.6x1単位位の単位、 内周(内面)あり (遺跡バ リが一部消失)、口縁部 の磨きが美しい、焼成時 間を過ぎたものを取出 し単位が若干異なるため、 異同 異年 近 世1期あた り? 4.6の単位が入る	16c末	第640-24	002	26～27
		土師器	杯	-	2.3+a	-	-	褐色	曹母、カクセン石	ナデ	ナデ		15c?	第640-25	003		
塚原遺跡群 第10次	5-1	土師器	小皿	-	-	-	-	暗茶褐色	曹母、カクセン石	ナデ	ナデ	赤印?	15cか	第640-26	002	35～36	
		瓦葺土器	銅鈿	-	-	-	-	明黄褐色	カクセン石、曹母	ナデ	口縁付流紋? ナデ、 鉄部: ミガキ		14～15c	第640-27	001		
		土師器	銅C	-	2.7+a	-	-	外: 暗茶褐色 内: 明褐色	石英	ハケ	ハケ、ナデ		16c後半?	第640-28	001		
	5-2	土師器	杯	-	3.2+a	-	-	褐色	カクセン石	ナデ	ナデ、指押さえ 兼ナデ		15c後半	第640-29	002		
		土師器	杯 (rト)	-	1.7+a	-	-	外: 暗茶褐色 内: 褐色	曹母、カクセン石	ナデ	ナデ			第640-30	003		
		青磁	瓶	-	3.3+a	-	-	灰緑色	黒色粘土	流輪	流輪	上部口縁		第640-31	001		
	5-2	瓦	平	-	-	1.7	-	外: 灰褐色 内: 灰褐色	石英、曹母、長石	指押さえと クズリを流す	指押さえが磨き			第640-32	004		
		弥生土器	高坪杯部	(30.0)	4.5	-	-	明褐色	石英多量、長石中 量、カクセン石、赤 色粘土少量含む	クズリ→ミガキ、 ナデ	横ナデ、ナデ子、 →ミガキ	口縁・内面・上縁及び外 面に赤色流紋		第640-33	005		

第10表 大分市埋蔵文化財調査概要報告 平成30年度調査版 掘載遺物 補遺 観察表

報告書抄録

ふりがな	おおいたしまいぞうぶんかざいちょうさがいようほうこく
書名	大分市埋蔵文化財調査概要報告2020
副書名	令和元年度調査版
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編者者名	中西武尚、松浦憲治、小野綾夏、山本尚人、奥津吉都美、高島豊
編集機関	大分市教育委員会
所在地	大分市荷国町2番31号
発行年月日	西暦2021年3月26日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中世大友府内町跡第138次調査	大分市鏡町1丁目	44201	201051	33.1404	131.3707	190304～190322	60.0	福祉施設
中世大友府内町跡第142次・145次調査	大分市六坊北町	44201	201051	33.1342	131.3703	190117～191212	127.1	集合住宅
中世大友府内町跡第143次調査	大分市六坊北町	44201	201051	33.1344	131.3703	190725	18.6	個人専用住宅
上野遺跡群第24次調査	大分市大字上野	44201	201047	33.1329	131.3621	190716～190814	72.2	宅地造成
古国府遺跡群第24次調査	大分市大字古国府	44201	201070	33.1251	131.3622	190716・200123	22.2	集合住宅
津守遺跡第4次調査	大分市大字津守	44201	201077	33.1250	131.3713	200309～200318	38.0	集合住宅
津守遺跡第5次調査	大分市大字津守	44201	201077	33.1233	131.3710	190516	28.0	集合住宅
作原八幡宮遺跡群第2次調査	大分市大字八幡	44201	201008	33.1418	131.3304	200217～200313	78.3	社殿解体修理
北の崎遺跡第3次調査	大分市大字葛木	44201	201152	33.1348	131.4021	200218～200221	50.0	集合住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中世大友府内町跡第138次調査	(集落) 中世都市	中世	礎石建物跡、火災処理土坑、廃棄土坑、溝状遺構、道路状遺構	土師器、瓦質土器、青花、青磁、白磁、中国陶器、タイ産陶器、東南アジア産陶器、華南三彩	火災処理土坑(16世紀後半～未明)、廃棄土坑(16世紀後半)、道路状遺構(16世紀)を検出した。道路状遺構は第2南北街路と推定できる。
中世大友府内町跡第142次・145次調査	(集落) 中世都市	中世	柱穴、槽状遺構、土坑、溝状遺構	土師器、土師質土器、瓦質土器、須恵質土器、青磁、白磁	南北溝(15世紀～16世紀初頭)と、溝より新しく、建物を構成すると考えられる柱穴群を検出した。
中世大友府内町跡第143次調査	(集落) 中世都市	中世	土坑、溝状遺構	土師器、瓦質土器、青磁、白磁	御蔵場があったとされる16世紀後半以前の東西溝(15世紀末～16世紀前半)を検出した。
上野遺跡群第24次調査	墳墓	古代	火葬墓、溝状遺構、土城墓	須恵器、鉄釘、刀子	荒尾産須恵器(磁片器)出土。調査地ならびに周辺は墓域と考えられる。
古国府遺跡群第24次調査	集落 縄文・古代		土坑	白色磨研土師器、白磁、青磁	南北に隣接する調査区で、北側は遺構が確認できなかったもの、南側で12～13世紀の遺構を検出した。
津守遺跡第4次調査	居館跡	中世	溝跡	土師器、須恵器、青磁、白磁	2条の溝跡(15世紀中頃～後半)を検出した。
津守遺跡第5次調査	居館跡	中世・近世	土坑、溝状遺構	土師器、青磁、肥前系染付磁、磁石	中世の遺構群、近世の東西方向の溝状遺構を検出した。
作原八幡宮遺跡群第2次調査	近世佛寺	近世	柱穴、基壇	国産磁器、青銅製品	宝暦7(1757)年に建築された東宝殿・西宝殿の基礎下とその周辺に広がる整地層を検出した。
北の崎遺跡第3次調査	集落 弥生・古墳・古代		縦立建物跡、壁穴建物跡、溝状遺構	弥生土器、土師器、須恵器	弥生時代の貯蔵穴・古墳時代の壁穴建物跡、古代の縦立建物跡、中世の溝状遺構などを検出した。

大分市埋蔵文化財調査概要報告2020
令和元年度調査版

令和3年3月31日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号
(097) 534-6111

